

2 延縄漁業

本県の延縄漁業には底延縄漁業、浮延縄漁業、底立延縄漁業があり、底延縄漁業はフェフキダイ類、フェダイ類等の底魚を対象とし、浮延縄漁業はマグロ類カジキ類等を対象とする。また底立延縄はマチ類等の底魚を対象に行われている。特定魚種を目的とする延縄も地域によって散見出来、底延縄では本部地区のキダイ（れんこ）の流し釣、伊江外数地区で行われている沿岸域でのア－ラ（殆んどやいととはたで15Kg～60Kg）延縄。主として糸満地区で行われているサメ延縄（但し最近は漁業というより有害動物駆除として対応している）。中城湾に面した漁協の漁業者が行っているチンシラー（おおすとらりあきちぬ）延縄、イジュキン（いとより）を対象とする延縄、主として5m以浅域で行われるタマン延縄（底立延縄）、糸満地区で行われているヒチュウマチ（最近は一フーマチが多くなった。）底立延縄、浮延縄では恩納地区で定置的に行われているマンビキ（しいら）延縄、そしてマグロ延縄がある。

(1) 底延縄（タマン他）…………… 糸満漁業協同組合

糸満漁協所属の底延縄漁業者は20数隻いるが、多くはサバニ（FRP）である。漁場は糸満～慶良間、久米島、伊是名、伊平屋方面である。冬期（寒期）は糸満から慶良間方面が一般的で、昼間操業、夏期（暑期）は遠出もし、夜間操業する。周年操業で魚種は時期、操業時間帯によって違うがタマン（はまふえふき）、シルイユ（しろだい）、ナガジュミーバイ（ばらはた）、ヤマトビー（にせくろほしふえだい）等である。ここで紹介する漁具、漁法はサバニに1人乗りで専業としている水揚げ実績が比較的高い漁業者のものである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図（図1-1）
- (ロ) 枝縄の幹縄へのとりつけ方（図1-2）
- (ハ) 漁具の仕様（表1-1）

B 漁 法

2トンのサバニに1人乗り、魚探、ベビーラインホーラー（電動）、自動操舵装置、遠隔操縦装置、無線電話（1W）を装備して、普通4月～10月頃まで夜間操業（タマン時期であり、夏は暑いことにもよる）、11月～3月までは日中操業する。漁場

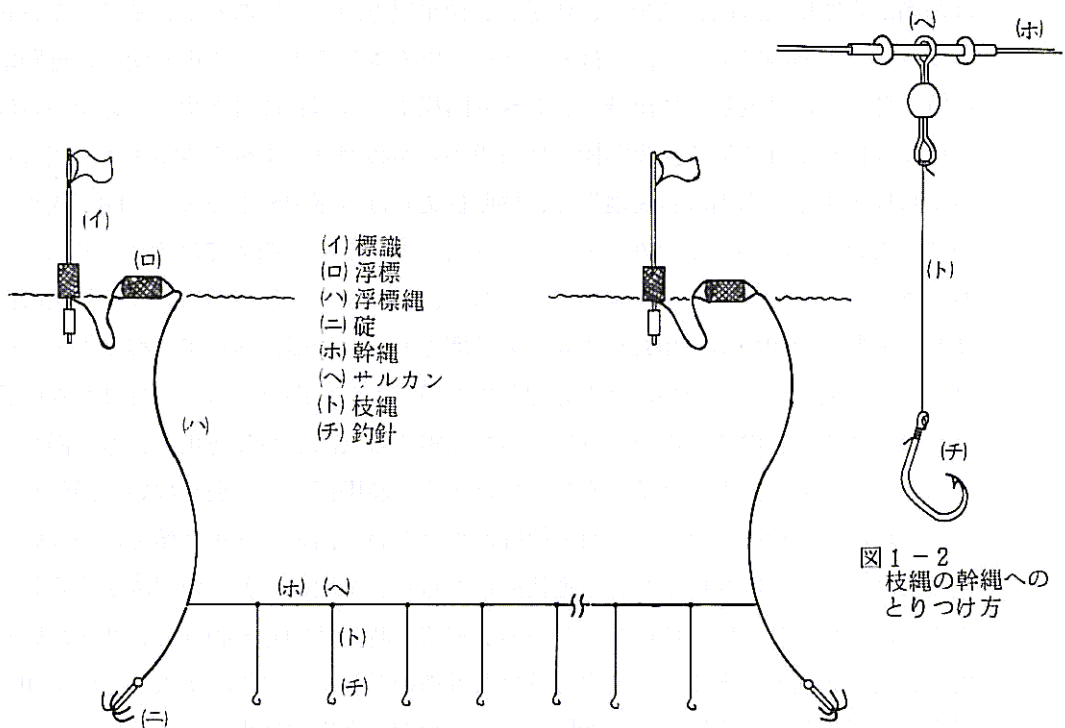


図 1-1 漁具の一般構成図

表 1-1 漁具の仕様 (1 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	標識 竿旗 (電灯) 浮子 おもり	ステンレス ナイロン布地 発泡ポリスチロール 鉛	径25mm 2m約3Kg 40cm×50cm 単一2個防水点滅灯 軟質筒型 { 浮力4Kg " 2.5Kg 約1.5Kg	各2本	昼間操業用 赤か黒又は両色布地 縫い合せ 夜間操業用 ステンレス棒下部を 含む
ロ	浮標	発泡ポリスチロール	浮力約5.5Kg	2個	
ハ	浮標縄	ポリプロピレン (PG)	3mm水深1.3~1.5倍	2本	
ニ	碇	鉄	1.5~2Kg	2本	鉄筋製4爪
ホ	幹縄	ナイロンテグス	海力 40~60号又はパーロン90 ポンド545~605号	1本	
ヘ	サルカン	{ニッケルクレーン サルカン付ステンレ スパイプ	ブランスイベル2号	180~ 200本	(両端1尋長い) 各枝縄に1ヶ当り 枝間3尋
ト	枝縄	ナイロンテグス	18号 0.5~0.6尋	"	海力印
チ	釣針	鋼	21号~22号	"	⊕ マチ釣針

は糸満から慶良間方面、久米島、伊是名、伊平屋方面までであるが、糸満～慶良間にかけてが主漁場である。漁具は釣針 180～200 本付を 1 鉢（1 箱）使い、近距離の時で冬時期には夜明けに出港し、5～6 回操業し日暮れに帰港する。遠出の時は 1 航海 3 日～7 日である。夜間操業は日没から始め翌日の 4～5 時頃までの間に 6～7 回操業する。漁場は岩礫地帯で、昼間操業時は水深 50～160 m の範囲で浅めのところでは、シルイユー、ナガジャーミーバイ、ムルー等を、深めではオオマチ（おおちびき）、ウキムルー（ひれながかんぱち）、マーマチ（おおひめ）等を対象に操業し、暑期の夜間操業は 40 m～100 m の範囲である。延縄は砂質帯（移動タマン遊びタマンを対象）では瀬がかりの心配が少ないことから潮流は斜めに受けたり横受けしたりするが岩場では潮の流れに沿って延縄する（瀬がかり防止）、もし瀬がかりしたら潮上に船で引っぱるようにはせず。漁場探索は特別しない。瀬礁をさがし、魚群の魚探反応が調べられる程好漁場はない。瀬礁には魚は殆んどいないと云える（多くの人に利用され、乱獲状態にある）、礫地帯で多少の起伏がみられるところがかえっていい漁場になっている。縄待ち時間は 20 分～40 分で、サメがいる場所、潮流が強めのところで岩場が多ければ縄の瀬がかりの危険が大きいので 20 分程度で揚縄する。漁獲量は 10～30Kg / 1 日の範囲で漁獲物は水蔵にする。

(2) 底延縄（タマン類）…………… 伊江漁業協同組合

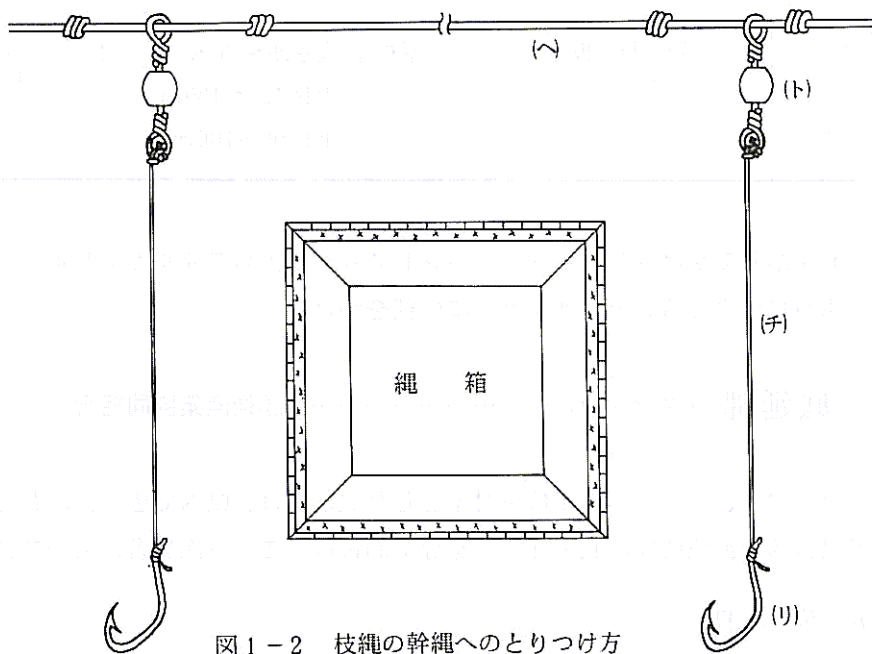
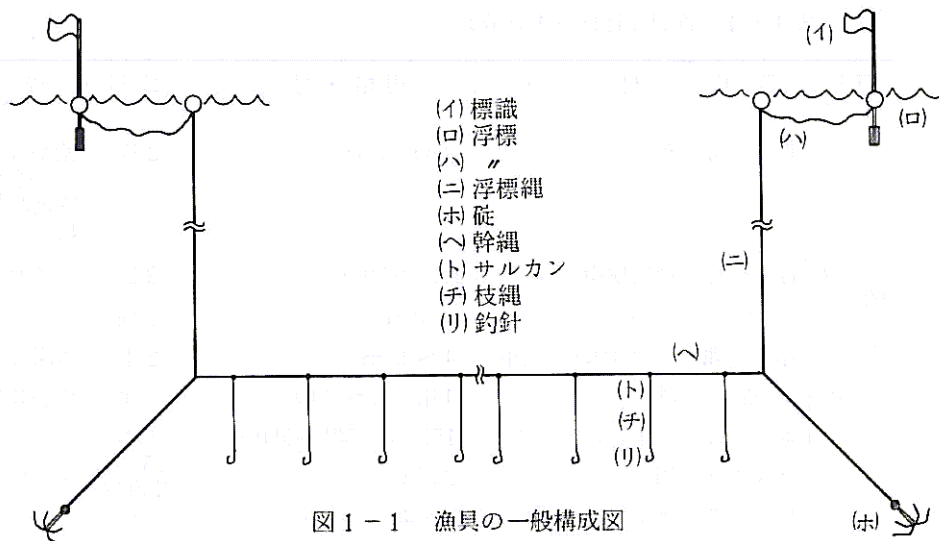
伊江漁協所属船による底延縄漁業は盛んで専業者も多い。兼業は曳縄（カツオ、マグロ、イカ等）及びアーラ底延縄である。ここでは専業的ではあるが一部アーラ底延縄との兼業者のものを紹介する。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図（図 1 - 1）
- (ロ) 枝縄の幹縄へのとりつけ方（図 1 - 2）
- (ハ) 漁具の仕様（表 1 - 1）

B 漁 法

FRP 漁船 2.5 トン乗組員は 1 人で漁場は伊江島周辺、伊是名～伊平屋周辺域で水深は 30～70 m、漁期は周年である。（年によってアーラ底延縄、イカ曳縄を兼業する）、操業日程は 1 日～3 日、夜間操業で日没と同時に微速前進で投縄（2 鉢使う）する。約 40～45 分縄待ちして揚げ、2 回目からは 1 鉢（釣針 250～280 本付）



づつ交たいして入れる。餌は冷凍イカ（若いカ）ムロ、サバを使う。一晩に5～7回操業する。漁獲物はタマン主体にビタロー、ミーバイ等で氷蔵にする。なお幹縄に枝縄を結ぶ方法は図1-2のように幹縄にあらかじめサルカンを必要分通しておき等間隔（4～6m）にマークをつけ、まずマークをはさんで幹縄を3回オーバーハンドノット（止め結び）し、引っぱって玉状にしてサルカンを寄せる（入れる）、4～

表 1-1 漁具の仕様 (1 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 1-1	イ 標 識	布	60cm × 70cm	2 枚	紫か黒 竹竿 2~3 m 鉄筋おもり 2~3 Kg
	ロ 浮 標	合成樹脂	径 28~30cm	2 個	ハイゼックス
	ハ " "	" "	径 20cm	2 個	
	ニ 浮 標 縄	ポリプロピレン (pp)	4~5 mm	2 本	水深の 1.5~2 倍
	ホ 礎	鉄	4 爪 3~4 Kg	2 ケ	鉄筋 3 分
	ヘ 幹 縄	ナイロンテグス	150 号 500~550 m	1 本	
	ト サルカン	鋼	2 / 0	250~280 個	タル型
	チ 枝 縄	ナイロンテグス	30~40 号 1 m	"	
リ 釣 針	鋼	19~20 号	"	マチ釣針	
図 1-2	イ 縄 箱	杉 板	厚 6 寸 高さ 25~30cm 上長 120~130cm 下長 95~100cm	1	上面に高さ 5cm のゴムをつけ釣 針掛けにする

6 m 離してやはり 3 回オーバーハンドノットで止めてサルカンが両玉から抜けられないように仕立てる。そのサルカンに枝縄をつける。

(3) 底延縄 (タマン他) 勝連漁業協同組合

フエダイ、フェフキダイ類を対象とした底延縄は、県内で広く行われているが、本漁具は勝連漁協所属の底延縄漁業を専門的に行っている漁業者のものである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図 1-1)
- (ロ) 枝縄とおもりの取り付け方及び釣針見取図 (図 1-2)
- (ハ) 漁具の仕様 (表 1-1)

B 漁 法

3 トンの漁船に 2 人乗組み、夜間操業を中心に行う。投縄開始は午後 5 時頃から一度に 2 鉢分の漁具を 1 組として使用し、餌はイカを細長く切り又は冷凍稚イカ

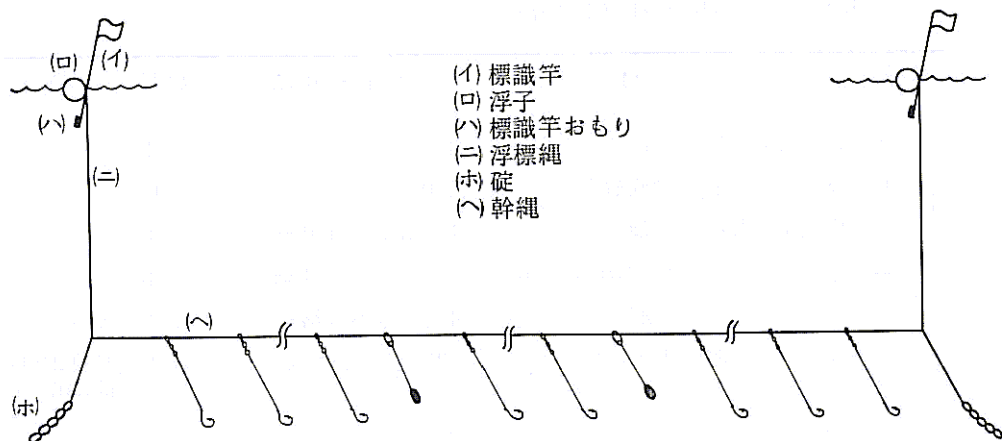


図 1 - 1 漁具の一般構成図

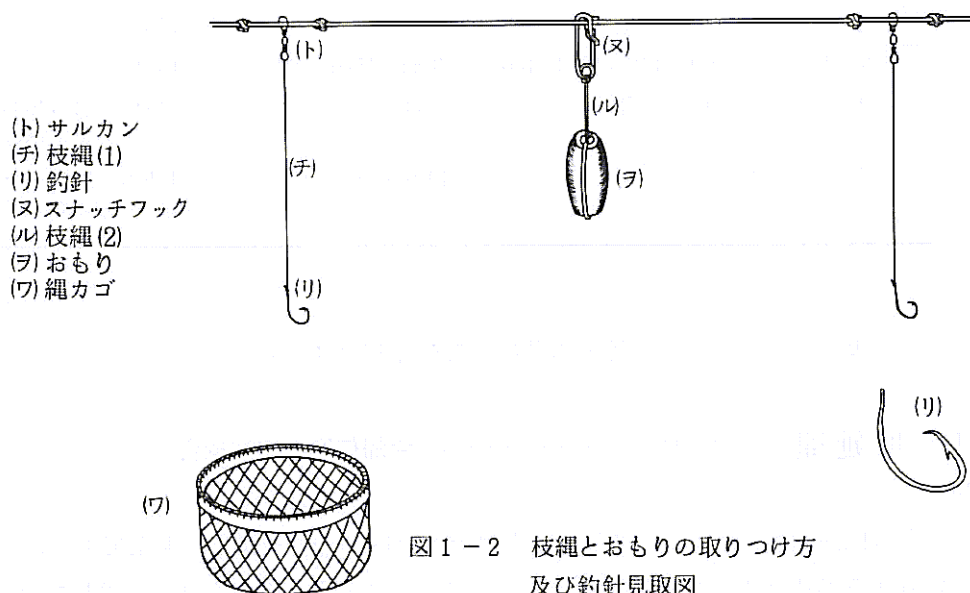


図 1 - 2 枝縄とおもりの取り付け方
 及び釣針見取図

(若いかと称す)は1尾かける。漁場は津堅島沖合水深60~100mを主漁場とし、普通潮を斜めに受けるように潮下に投縄するが風波があるときは風波を左舷斜め前方から受けるようにする。投縄は船尾から行う。1人は操舵し1人は投縄する、まず中速で航走しながら①標識、②標識縄、③碇、④幹縄、枝縄、縄おもり(適宜)⑤碇、⑥標識縄、⑦標識で投縄を終了する。30分から1時間縄待ちし揚縄する(風波の強弱を考慮して揚げる方向を決める)一晩で3~4回操業する。漁獲物はタマ

表 1-1 漁具の仕様 (1鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 一 一	イ 標識竿	竹	3 m	2本	
	ロ 浮子	合成樹脂	280 mm	2個	
	ハ 標識竿おもり	鋼	1寸5分 300 mm	2本	
	ニ 浮標縄	ポリプロピレン (pp)	4 mm	2本	
	ホ 礎	鋼	4分 (4~5 Kg)	2本	
ヘ 幹縄	ナイロンテグス	120号 1,800 m	1本	チェーン 枝縄取付け 間隔6 m (4ヒロ)	
図 一 二	ト サルカン	真ちゅう	3 / 0号	300個	タル型
	チ 枝縄	ナイロンテグス	50号 1 m	300本	
	リ 釣針	鋼	21号	300本	マチ釣針
	ヌ スナッチフック	鋼	小	15個	
	ル 枝縄 (2)	ポリプロピレン (pp)	3 mm 15cm	15本	
	ヲ おもり	鉛	60号	15個	潮の強弱に応じて増減する
	ワ 縄カゴ	鋼	40~90 cm	1カゴ	釣針掛は上面にゴムを張る

ン、ビタロー、ミーバイ等で氷蔵にして朝水揚げする。

(4) 底延縄 (タマン他) 今帰仁漁業協同組合

今帰仁漁協所属船による底延縄漁業は殆んど底刺網や曳縄との兼業である。ここで紹介する漁法は1トン船内外機付ボードに1~2人乗って沿岸域で操業しているもので、底刺網(10月~2月まで)との兼業である。

A 漁具

(イ) 一般構成図(図1-1)

(ロ) 漁具の仕様(表1-1)

B 漁法

漁場は備瀬崎から古宇利島周辺、塩屋沖にかけ水深30~100 mのところでは操業す

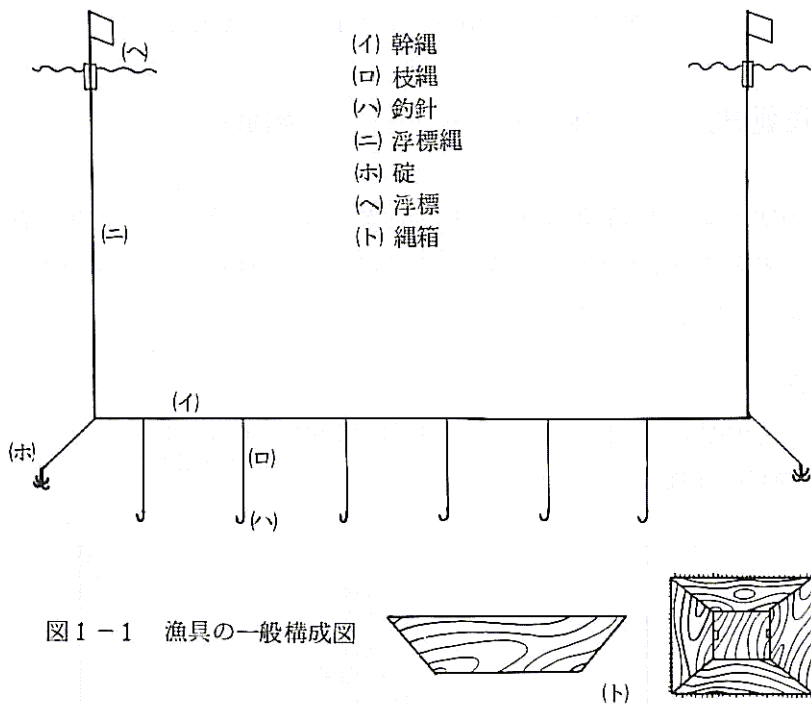


図1-1 漁具の一般構成図

表1-1 漁具の仕様 (3鉢(3箱)分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	幹縄	ナイロンテグス	130~150号 1,300~1,500m	1本	
ロ	枝縄	ナイロンテグス	30~40号 40~50cm	200本 ~230	枝間隔6~7m
ハ	釣針	鋼	20~23号	"	マチ釣針
ニ	浮標縄	ポリプロピレン(pp)	6mm 100~200m	2本	
ホ	碇	鉄	3分 重さ3~5kg	2ヶ	鉄筋 4本爪
ヘ	浮標	発泡スチロール	30cm × 40cm	2個	網で包んで使用
ト	縄箱	木板	高30~50cm 上一辺 100cm 下一辺 80cm	3箱	

る。夜明け前から夕方にかけて瀬礁域を潮上より潮流を横切って中速(3~5ノット)で航走しながら投縄する。3鉢を1組として釣針200~230本を使い、1日4~5回操業する。縄待ち時間は1時間弱で揚縄する場合は潮上に向かって船首より右舷のベビーホーラーか手揚げ(浅いところの場合)する。漁期は3月~9月で餌は冷凍ムロ、サンマ等を三枚おろしにし、適当に切って使用する。漁獲物はタマン、ビタ

ロー、ミーバイ等である。大型のアイスボックスに氷蔵する。

(5) 底延縄 (タマン他)粟国村

粟国地区における底延縄漁業は曳縄漁業との兼業が殆んどで約10隻着業しているが3トン未満で多くはサバニである。ここに紹介する漁法もサバニを使って粟国島周辺で操業しているものである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1)
- (ロ) 枝縄の幹縄へのとりつけ方 (図1-2)
- (ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

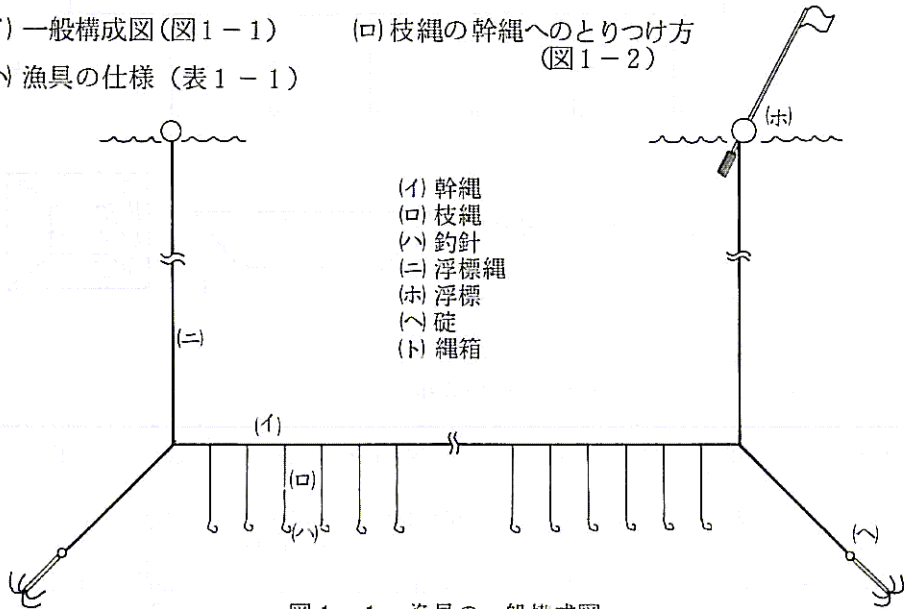


図1-1 漁具の一般構成図

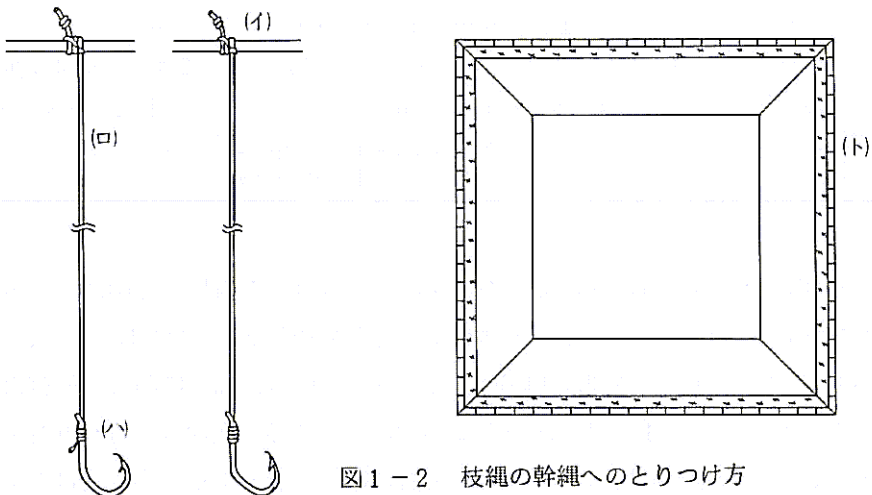


図1-2 枝縄の幹縄へのとりつけ方

(ロ) 漁具の仕様 (表 1-1)

表 1-1 漁具の仕様 1鉢 (1箱) 分

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 一 一	イ 幹 縄	ナイロンテグス	60～80号 1,000～1,300 ^m	1本	枝縄の間隔 4～5 m マチ釣針 プラスチック浮子 鉄筋
	ロ 枝 縄	ナイロンテグス	30号 70 cm	250～260本	
	ハ 釣 針	鋼	20～23号	250～260本	
	ニ 浮標縄	クレモナ	4～6 mm 70～150 m	2本	
	ホ 浮 標	合成樹脂	33cm	2個	
ヘ 碇	鉄	3分 4爪 4～7 Kg	2ヶ		
	ト 縄 箱	木 (杉板)	高さ25 ^{cm} 上 120 cm～130 cm 下 100 cm	1箱	釣針掛け 上 5 cm (ゴム)

B 漁 法

漁期は7月～10月で、漁場は島周辺の水深70～150 mの範囲、操業は日没から日出まで、漁具は2鉢 (2箱) 使い、初回は同時に使う。2回目からは1鉢づつ2組に分けて投縄する。1組揚縄したら餌をつけて投縄し2組目の縄を揚げ終わったら直ちに餌をつけて投縄する。1組 (1鉢) 縄待ち時間は40分程度、投縄 (A B縄) - 揚縄 (A B縄) - 投縄 (A縄) - 投縄 (B縄) - 揚縄投縄 (B縄) これをくりかえして、一晚6～7回操業する。魚の喰いは干潮時1～2時間前後が良い。潮汐時刻との関係も漁況に影響する。一晚で多いときで40～50Kg、少ない時は10～20Kg、1鉢の釣針数は250～260本、餌は冷凍イカ (ムラサキイカ) を細長く切って使う。漁獲物はタマン、シルイユ、大口マチ (おおくちいしちびき) 等でアイスボックスに氷蔵する。冷凍庫に貯蔵して数日から2週間に1回那覇か糸満に定期便または漁協の出荷船で運搬している。

(6) 底延縄 (タマン他) 伊是名漁業協同組合

伊是名漁協所属船による底延縄漁業は専業でなく曳縄との兼業、モズク養殖の副業である。次の漁具は曳縄 (カツオ、サワラ、イカ等) との兼業者のもの紹介である。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1)
- (ロ) 枝縄の幹縄へのとりつけ方 (図1-2)
- (ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

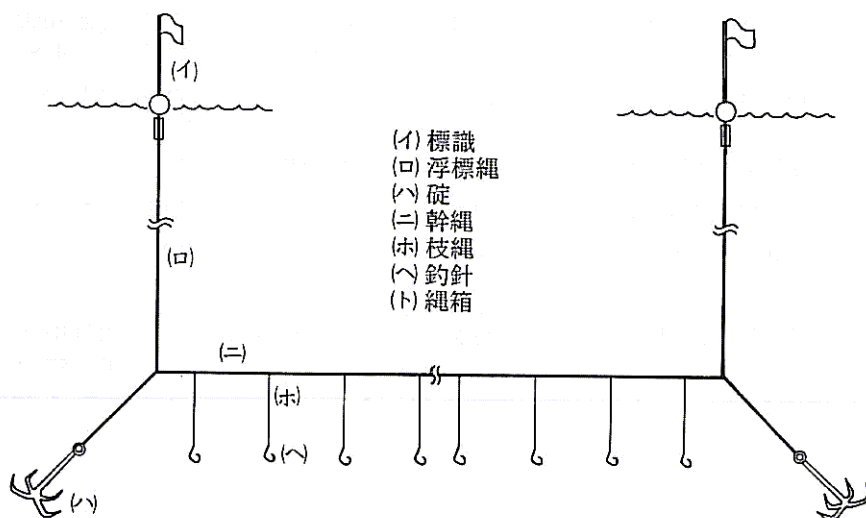


図1-1 漁具の一般構成図

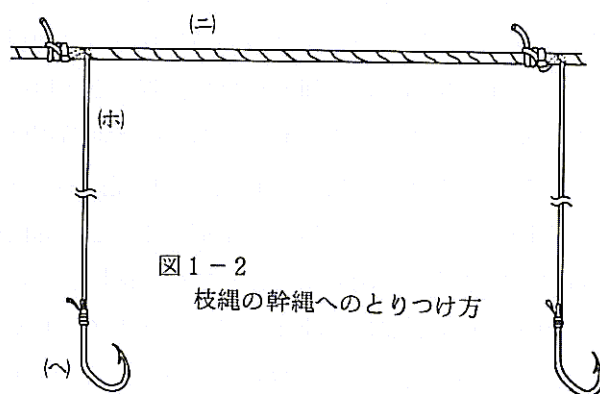


図1-2
枝縄の幹縄へのとりつけ方

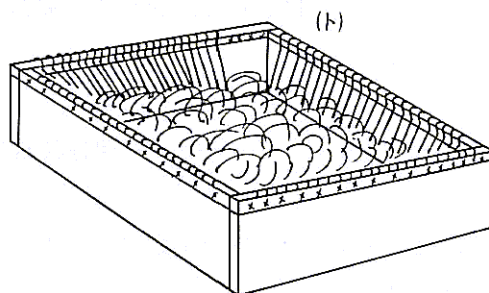


表 1-1 漁具の仕様 (1 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	標識竿	竹	2.5 m ~ 3 m	2 本	
	旗	布	40 ~ 50 cm	2 枚	黒か紫
	浮子	プラスチック	28 cm	2 個	発泡スチロールを網で包んで使う時もある
ロ	おもり	鉄	2 ~ 3 Kg	2 ケ	鉄筋
	浮標縄	ポリプロピレン (PG)	3 ~ 4 mm	2 本	水深の 1.2 倍以上
ハ	碇	鉄	3 分 4 ~ 5 Kg	2 ケ	鉄筋加工
ニ	幹縄	クレモナ	90 本合せ 約 450 m	1 本	
ホ	枝縄	ナイロンテグス	20 ~ 30 号 50 cm	90 ~ 95 本	枝縄間 5 m
ヘ	釣針	鋼	23 号	〃	マチ釣針
ト	縄箱	杉板	高 20 cm 長 70 cm	2 箱	

B 漁法

漁船は 1 人乗りの F R P 1.5 トンで 1 鉢 90 ~ 95 本付の延縄を使い魚探で漁場探索をして操業する。早朝から日没間際までと 2 ~ 3 日間隔で夜間操業も行う。1 日 5 ~ 6 回操業でベビーホーラーを使い浅いところは手揚げする。漁場は伊是名島周辺とりわけ西から北にかけての水深 40 ~ 60 m、漁期は 6 月 ~ 12 月、餌は冷凍ムロ、イカ等、漁獲物はタマン、アカジン、ヤキー、オオマチ等で、アイスボックスで氷蔵する。枝縄の幹縄への結び方は、幹縄の撚りに枝縄の先を通しいわゆる枝縄結びと称する方法で幹縄に結ぶ。

(7) 底延縄 (タマン他) 伊平屋村漁業協同組合

伊平屋村漁協所属船による底延縄漁業は漁場が近く、広いわりには盛んではないと云える。着業隻数は数隻である。ここで紹介するのは F R P 船 3.5 トンで伊平屋島周辺、偉業曾根等瀬礁域を漁場として 1 ~ 2 人乗組んで操業している専業者のものである。

A 漁具

(イ) 一般構成図 (図 1-1)

(ロ) 枝繩の幹繩へのとりつけ方 (図1-2)

(ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

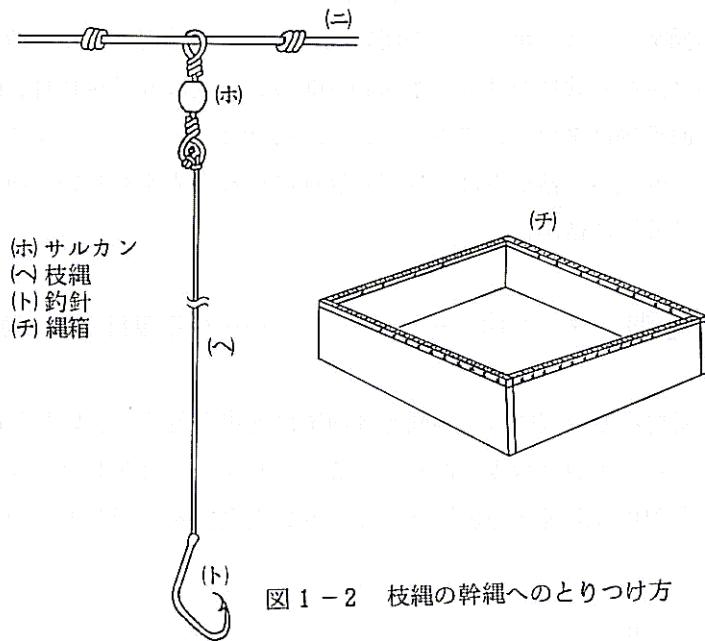
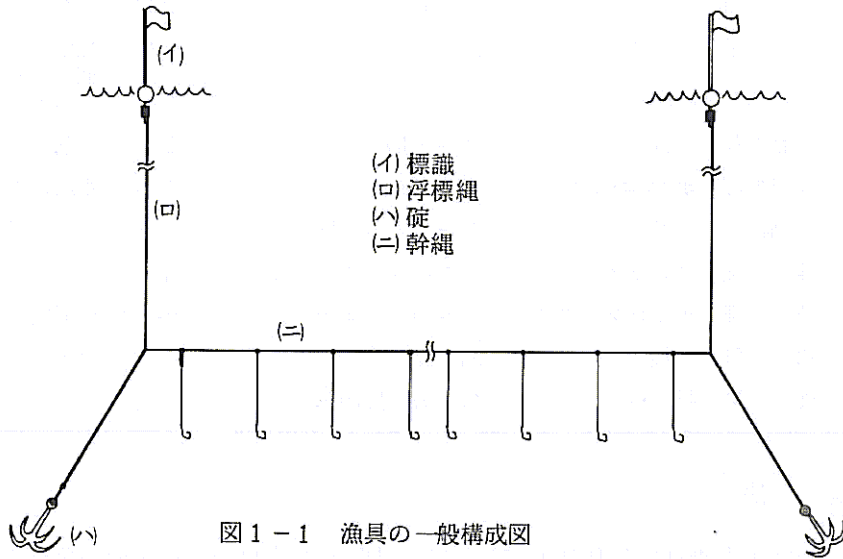


表 1-1 漁具の仕様 (2 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 1-1	イ 標識 竿	グラスファイバー	3 m	2 本	
	旗	ナイロン	35cm × 40cm (赤)	2 枚	ナイロンタープリン
	浮子	プラスチック	30 cm	2 個	潮流の強弱で 1 個 づつ追加
	おもり	鉄	3 ~ 4 Kg	2 ケ	鉄筋 6 分
	ロ 浮標 縄	ポリプロピレン (pp)	5 mm	2 本	水深と潮流の強さ で決め水深の 1.2 ~ 2 倍
ハ	碇	鉄	4 爪 約 4 Kg	2 ケ	鉄筋(潮流、風波に より鉄筋 2 Kg 追加)
	ニ 幹 縄	ナイロンテグス	150 ポンド 730 ~ 970 m	2 本	パーロンテグス (両端 1 m 程度長い)
図 1-2	ホ サルカン	鋼	3 / 0 ~ 4 / 0	230 ~ 240 個	タル型
	ヘ 枝 縄	ナイロンテグス	15号 90cm	"	海力印、枝縄間 4 m
	ト 釣 針	鋼	18号	"	マチ釣針
	チ 縄 箱	F.R.P (ガラス繊維で強化 されたプラスチック)	高 36cm 長 96cm	2 ケ	上面 V ベルト 張り 自家製

B 漁 法

魚探で漁場探索をして、棚上のところを潮を斜めに受けるようにして船尾から投縄し揚縄は船首側で行う。操業は夏時期は曾根域や島棚の深み(水深 100~150 m)でマチ類(シチューマチ、大口マチ、オオマチ)やハタ類、アジ類を対象として 3~5 日航海で、冬時期は島の周辺の水深 30~100m のところで夕方~翌朝までの一晚操業で、タマン、ビタロー、ミーバイ、アジ類を漁獲する。

1 鉢に釣針 230~240 本付けを 2 鉢使用し、夜間操業で一晚 5~6 回操業する。縄待ち時間を 40分~1 時間とり揚縄は船首側右舷備え付けの泉井式ラインローラー 1 号を使って入れ始めのところから揚げる。餌は冷凍サバ、ムロを三枚おろしにし肉部を適宜切って使い、若イカの時 は 1 尾がけする。漁獲物は氷蔵にする。なお幹縄と枝縄の装着方法は図 1-2 のように、サルカンをはさんで幹縄を 2 ケ所玉結びする。

(8) 底立延縄 (通称タマン延縄) 糸満漁業協同組合

タマン (はまふえふき) を対象とした底延縄は、各地に多いが、水深、地形によって漁具漁法も多少異なる。底延縄は普通地ばえであるのに対しこの漁法は縄全体を浮かすため浮子とおもりで調節する。一般にタマン延縄と称しているが底立延縄と云える。漁場は昼間は漁業対象魚種がほとんどみられない礁湖の浅い海域 (大潮の干潮時にほとんど干出してしまうような水深まで含む) に夜間索餌回遊するタマンを漁獲することを目的とし、漁具の投縄方法、投縄水域まで細かくタマンの生態が考慮されている漁法である。従って他の底延縄と比較して操業には技術が要求される。なおこの漁法は糸満漁協所属の2.2トンの船に1人乗って曳縄との兼業をしている漁業者のものの紹介である。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1)
- (ロ) おもりと浮子の構成図 (図1-2)
- (ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

B 漁 法

(イ) 操業方法

漁場は浅海域で、日没30分前頃には着くようにする。漁場に着くと周辺環境を

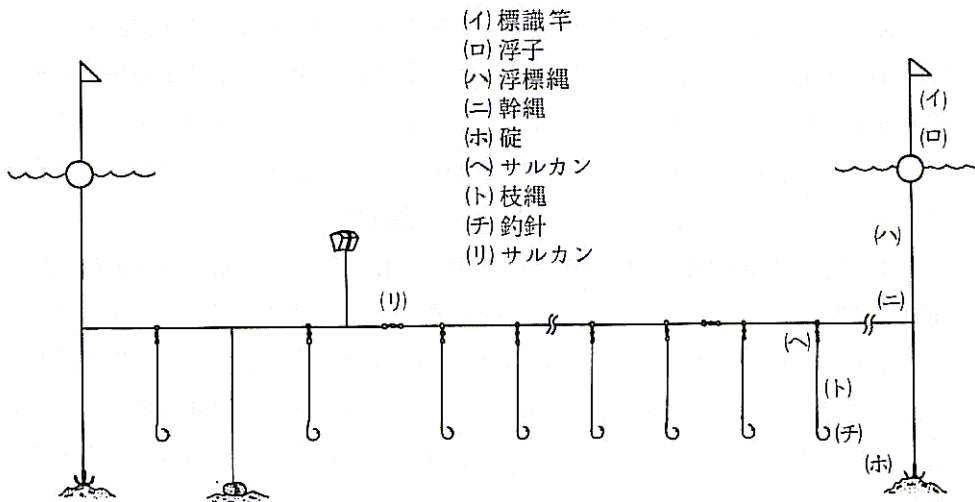
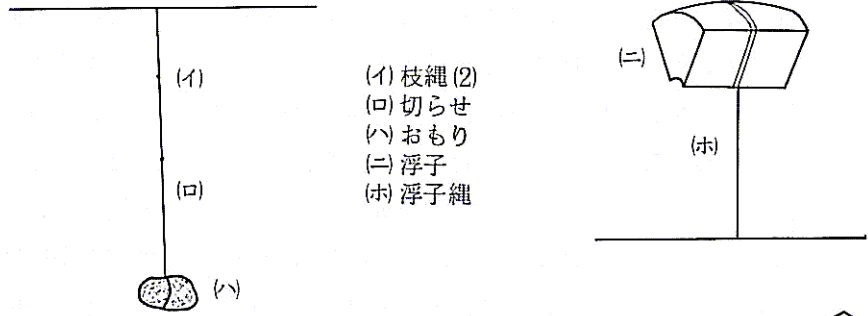


図1-1 漁具の一般構成図



(イ) 枝縄 (2)
 (ロ) 切らせ
 (ハ) おもり
 (ニ) 浮子
 (ホ) 浮子縄

図1-2 おもりと浮子の構成図

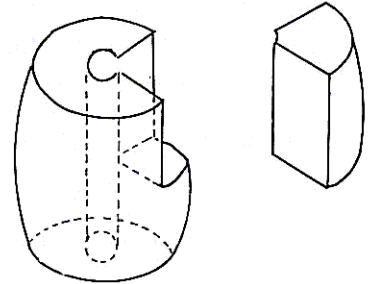


表1-1 漁具の仕様 (1鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 一 一	イ 標識竿	竹	3 m	2本	30 m 縄を水深に応じて使う タル型 マチ釣針 タル型、25枝毎に1個
	ロ 浮子	発泡ポリスチレン	280 mm	2個	
	ハ 浮標縄	ポリプロピレン (pp)	4 mm 水深の2倍	2本	
	ニ 幹縄	ナイロンテグス	80号 600 m	1本	
	ホ 碇	錳	5 Kg	2本	
	ヘ サルカン	真ちゅう	2/0号	120個	
	ト 枝縄	ナイロンテグス	40号 1 m	120本	
	チ 釣針	鋼	18号	120本	
リ サルカン	真ちゅう	2/0号	5個		
図 一 二	イ 枝縄	テトロン、ナイロン混及びポリエチレン	1 m	20~30本	スーパート40号及びマルロン印60号
	ロ 切らせ	クレモナ	10cm 30本糸	20~30本	網糸
	ハ おもり	石	500~600g、10cm径	20~30個	材質の一般名 (発泡スチロール)
	ニ 浮子	発泡ポリスチレン	150~200 mm 1/8	20~30個	
ホ 浮子縄	ポリエチレン	1 m	20~30本	マルロン印 60号	

見て、タマンの通りそうなところ、投縄コースを検討する。その後投縄開始位置に向い投縄を開始する。投縄はあらかじめ下見したコースに入れて行くが水

深の変化が激しく時には1～5mの差もあり底質もさんご域から砂礫域と変化するので、幹縄にとり付ける浮子とおもりとの付け縄の長さをうまく調整し、砂礫底では餌が底に付くように、さんご域では幹縄がからまないようにする。投縄コースも複雑で、大きな岩は周辺から、水路になっているところはその中を通す。漁場の広がりによって1鉢(600m)を2ヶ所に入れる場合と、2鉢(1,200m)を1ヶ所に入れる場合もある。漁具は一晩おき翌朝縄を手揚げする。餌はいろいろで冷凍サンマ、ムロ、キビナゴ、カツオのハラゴ等を使用する。雑魚(ウツボ類、アナゴ類、ボラ等)も肉部を使用する。またウミホーミ(いそあわもち)も使うがこれは餌持ちが良い反面、魚の喰い付きは若かん悪い。

(ロ) 漁期、漁場および漁獲物

漁期はタマンを主対象とする場合は3月～7、8月で、冬季外海が時化続きの時でも礁湖域が漁場であるため雑魚を対象として同じ方法で操業する。漁場は那覇から喜屋武にかけての礁湖域である。漁獲物はタマン(3Kgを越すものも漁獲される)を主体にコトヒキ、ヨスジフエダイ等で氷蔵にする。

(9) 底立延縄 (通称タマン延縄) …………… 勝連漁業協同組合

この漁法は春～夏(4月～8月)にかけてタマン(1才～4才5才)が沿岸域の水深3～10mのところに集まるのでこれを対象としてこの立延縄で操業する。底延縄がその名のとおり海底につけて延縄するのに対しこの漁具は浮子(普通水中にある)とおもりで調整し漁具全体を浮かしており底立延縄と称される。3トン未満の漁船に1人乗って行く。漁具は2組使用し、1組の漁具を投縄した後にもう1組も投縄する。次いで最初に入れた漁具を揚げ餌を付けて再び投縄し、もう1組の漁具を揚げる。この2組の漁具を使い1日にそれぞれ3回操業する。操業は殆んど昼間行うが夜間行うときもある。餌は冷凍キビナゴを使う。なお同時にマクブ(しろくらべら)をねらってガンガゼのとげを切って餌としてキビナゴと混用する。漁場は水深3～10mの沿岸域で中城湾が主漁場で、金武湾内でも行う。漁獲物はタマン(はまふえふき)が殆んどである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図(図1-1)
- (ロ) 枝縄と浮子、おもりのつけ方(図1-2)
- (ハ) 漁具の仕様(表1-1)

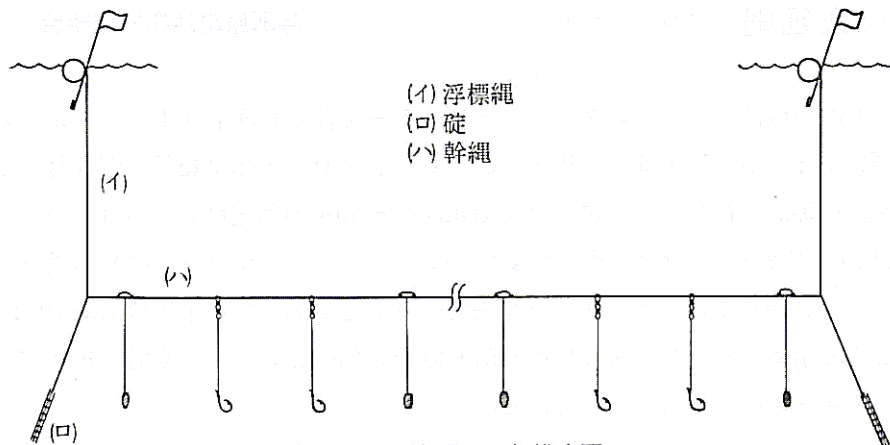


図1-1 漁具の一般構成図

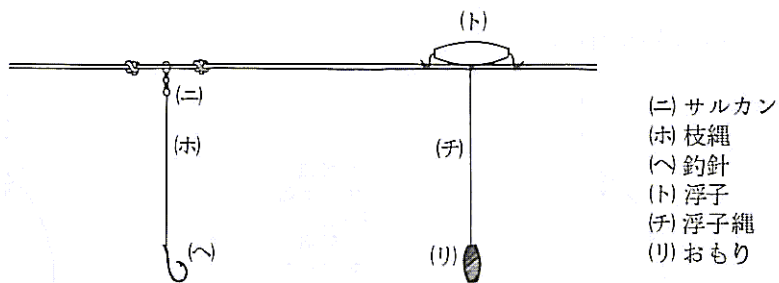


図1-2 枝縄と浮子、おもりのつけ方

表1-1 漁具の仕様 (1組分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 一 一	イ 浮標縄	ポリプロピレン (PP)	4 mm 10~20 m	2 本	45 m 縄を水深に応じて丸める。 チェーン
	ロ 碇	鋼	4 分 (1~2 Kg)	2 ケ	
	ハ 幹縄	ナイロンテグス	100~200 号 1,500 m	1 本	枝縄取り付け間隔 4.5 m
図 一 二	ニ サルカン	真ちゅう	3 / 0 号	350 本	タル型
	ホ 枝縄	ナイロンテグス	50 号 2 m	350 本	
	ヘ 釣針	鋼	19 号	350 本	マチ釣針
	ト 浮子	合成樹脂	AC-5	115 個	
	チ 浮子縄	ナイロンテグス	50 号 2 m	115 個	
リ おもり	鉛	30~40 匁	115 個		

(10) 底延縄 (クロダイ類)

与那原町漁業協同組合

中城湾域におけるクロタイ類 (チンシラーを含む) 漁業は1トン~3トンのFRP漁船でイトヨリ漁と兼ねて周年行われるが、クロダイ類は12月~翌3月が主漁期で漁場は中城湾主体に金武湾にかけての水深10~30mの砂泥域で行われている。着業隻数は10隻程度で、最近は漁獲量が少なくなったこと。パヤオ (浮魚礁) の設置効果によりパヤオ利用漁業に主力が注がれて来ていることもあって着業隻数は減少傾向にある。ここで示す漁具及び漁法は与那原町漁協所属船の2.3トンの漁船 (FRP) で行っている60才前の漁業者のものである。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図1-1)

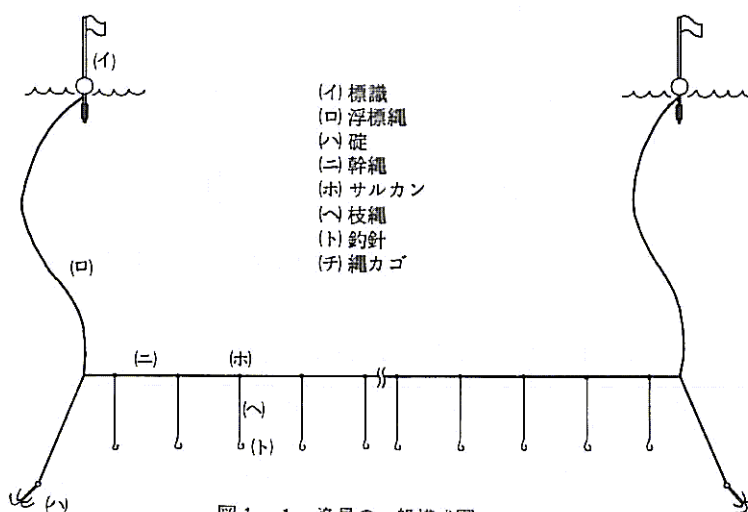
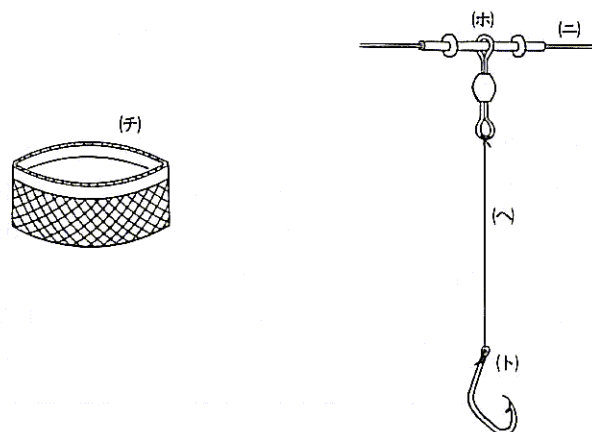


図1-1 漁具の一般構成図



(ロ) 漁具の仕様 (表 1-1)

表 1-1 漁具の仕様 (1 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	標識竿	グラスファイバー 又は竹	2.5 m	2 本	鉛 (おもり) 付
	旗	布	40 × 45 cm	2 枚	黒か紫色
	浮子	プラスチック	径 28 ~ 30 cm	2 ケ	発泡スチロール製 浮子も使う
ロ	浮標縄	ポリプロピレン (pp)	4 ~ 5 mm	2 本	水深の 1.2 ~ 1.5 倍 程度
ハ	碇	鉄	約 3 Kg (3 分鉄筋)	2 ケ	
ニ	幹縄	ナイロンテグス	40 ~ 60 ポンド 610 ~ 660 m	1 本	パーロン印
ホ	サルカン	パイプはアルミ、 ステンレス又は鋼	4 号	120 ~ 130 個	クレーン サルカンはニッケル 張り
ヘ	枝縄	ナイロンテグス	20 ~ 35 ポンド 1 m	120 ~ 130 本	パーロン印 枝間 5 m
ト	釣針	鋼	10 ~ 12 号	120 ~ 130 本	鯛釣針
チ	縄かご	プラスチック	高さ 30 cm + ゴム 10 cm = 40 cm 直径 90 cm	1 カゴ	脱水カゴ 又はタライを使用 する

B 漁法

予定漁場が近ければ夕方出港前に餌がけ (餌は麩が殆んど) してすぐ投縄出来るようにする。チン、チンシラーは岩礁近くの砂泥質のところに多いことから岩場があれば離して投縄する。使用鉢数は 1 鉢 120 ~ 130 本付けで 3 ~ 4 鉢を 1 組として延縄する。夜間操業で一晩に 3 ~ 4 回操業し、延縄の待ち時間は 40 分 ~ 50 分、漁期は 11 月 ~ 3 月 (新暦)、餌は麩が多いが時には活エビ (フトミゾエビ) を使うときもある。なお麩の使い方は、麩を水に漬け、水分を十分浸み込ませ、それをやや乾燥させたのち重石を乗せて圧縮し、ねばりをつけさせる。これを適当な大きさに切って使う。イトヨリ漁は 3 月 ~ 6 月頃が漁期でイトヨリはキビナゴと若イカを使う。7 月以降 11 月頃まではトビイカ漁を行う。

(11) 底延縄 (イトヨリ) 勝連漁業協同組合

県内においてイトヨリは金武湾、中城湾に多く生息し、金武湾に面する各地区ではイトヨリを対象とした延縄が行われ、勝連漁協所属船も5～6隻操業している。この漁法は、その中の代表的なものである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1) (ロ) 枝縄と釣針 (図1-2)
 (ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

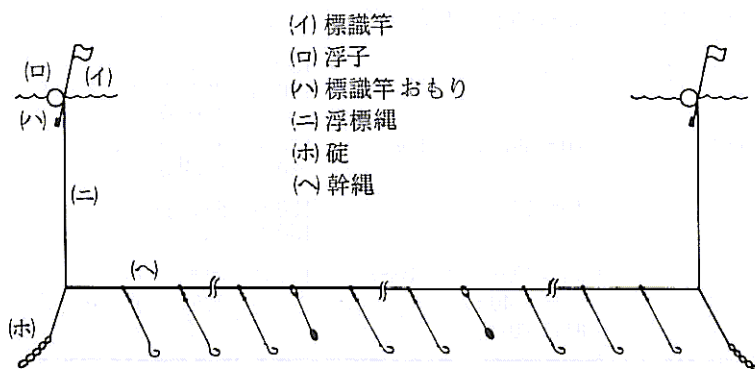


図1-1 漁具の一般構成図

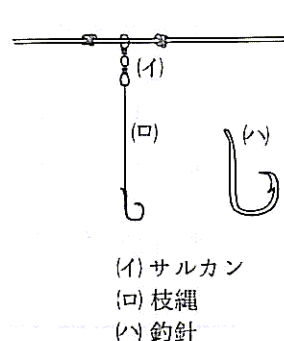


図1-2 枝縄と釣針

表1-1 漁具の仕様 (1鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考	
図 1- 1	イ	標識竿	竹	3 m	2本	チェーン 枝縄取り付け 間隔6 m
	ロ	浮子	合成樹脂	280 mm	2個	
	ハ	標識竿おもり	銅	1寸5分 300 mm	2本	
	ニ	浮標縄	ポリプロピレン (pp)	4 mm 水深の1.3~2倍	2本	
	ホ	碇	鋼	4分 (4~5 Kg)	2本	
	ヘ	幹縄	ナイロンテグス	120号 1,800 m	1本	
図 1- 2	イ	サルカン	真ちゅう	3/0号	300個	タル型
	ロ	枝縄	ナイロンテグス	30号 50cm	300本	
	ハ	釣針	鋼	10号	300本	鯛釣針

B 漁 法

(イ) 操業方法

漁具自体小規模で、操業水深も浅く、漁場も湾内のため3トン未満の小型船の一人乗り操業で一日何回も操業する。縄待ち時間は20分程度である。餌はキビナゴ（半切）を使用する。

(ロ) 漁期、漁場および漁獲物

漁期は冬季で、時化で外海での操業ができない時でも漁場が湾内なので操業可能である。漁場は、主として金武湾内で水深は30m程度の砂泥域で、漁獲物はイジュキン（イトヨリ類）がほとんどである。

(12) 底延縄（ア－ラ）…………… 伊江漁業協同組合

伊江漁協所属船によるア－ラ（大型のはた類）延縄は10隻以上が操業しイカ曳、瀬魚底延縄等との兼業が多い。漁場は水深20～50mの瀬礁域で、漁期は周年であるが盛期は10月11月である。年間約900尾も水揚げするという。（1尾平均30kg）、ここで紹介するのもイカ曳、タマン延縄との兼業者のものである。

A 漁 具

(イ) 一般構成図（図1-1）

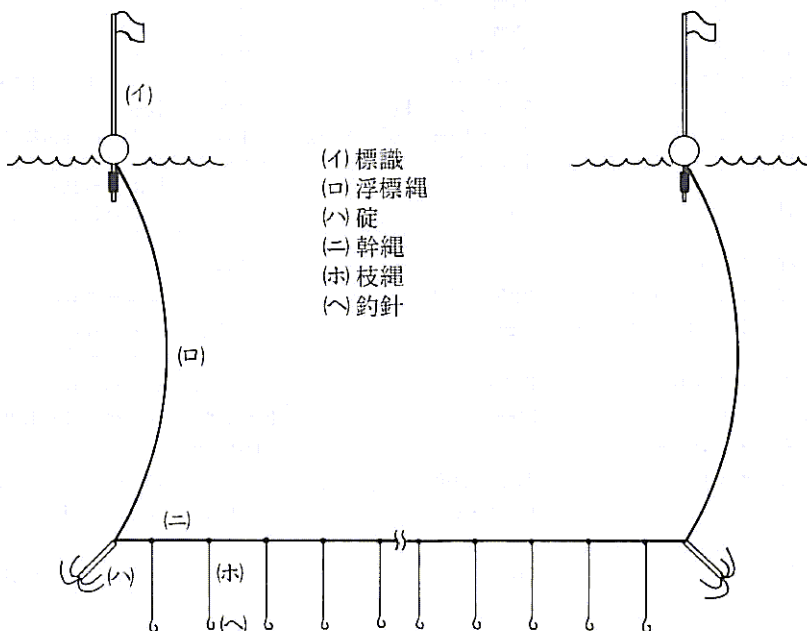


図1-1 漁具の一般構成図

(ロ) 枝繩の幹繩へのとりつけ方 (図1-2)

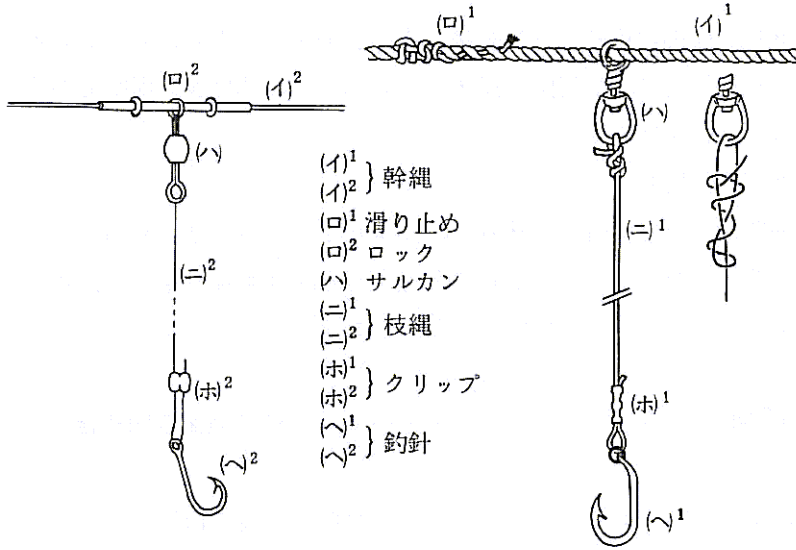


図1-2 枝繩の幹繩へのとりつけ方

(ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

表1-1 漁具の仕様 (1鉢分) (図1-1は幹繩にクレモナを使用)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考	
図1-1	イ	標識竿	竹	2 m	2本	
		旗	布	40cm × 45cm	2枚	黒赤
		浮子	プラスチック	30cm	2ヶ	
		おもり	鉄	2~3 Kg	2ヶ	鉄筋
	ロ	浮標繩	ポリプロピレン	6~9 mm	2本	水深の1.2~1.5倍
	ハ	碇	鉄	3分 4~5 Kg	2ヶ	鉄筋
図1-2	ニ	幹繩	クレモナ	5mm~6mm 700~800m	1本	マグロ延縄古縄使用
	ホ	枝繩	ナイロンテグス	180ポンド 2.6 m	40~60本	パーロン
		釣針	鋼	40号	"	枝間13~15m マグロ針、ムツ針
	イ¹	幹繩	クレモナ		1本	
	イ²	幹繩	ナイロンテグス	200~250号		ニュークロ印
	ロ¹	滑り止め	ポリプロピレン(pp)	3mm	40~60個	縄の撚りにさしてこんで数回止め結びする
図1-2	ロ²	ロック	ステンレス	B 4号	40~60個	シルバーロック
	ハ	サルカン	銅	12mm	40~60個	シルバーSBLサルカン
	ニ¹	枝繩	ナイロンテグス		40~60個	
	ニ²	枝繩	ナイロンテグス	150~200号 2.3 m		ワイヤー#31 1×7も代用する
	ホ¹	クリップ	銅	L 13mm	40~60個	ワイヤー#31 1×7も代用する コッパー印 (ニッケル張り)
	ホ²	"	鉛			
図1-2	ノ¹	釣針	鋼	40号	"	マグロ針、ムツ針
	ノ²	"	"	"	"	

B 漁 法

沿岸の瀬礁地帯で巣穴状が生息に適していることから並型人工魚礁も好漁場となっている。水深は20~50m。魚体が大きく歯も強いことから漁具は太目のものを使い釣針は大きく数は少なめに使う。1鉢（1組）に50~60本が限度。日没前に延縄し翌朝揚げる。その間の時間は11月~3月頃までは月夜であればイカ曳き（アオリイカ）を行う。またタマン延縄を多く行う。漁獲物はアーラ（やいととはたが殆んど）ウツボ、サメ等であるが雑魚は少ない。餌はウツボの切り身が良い（餌持ちも良い）サメの切り身、エイ等も使う。ラインホーラー1号を持っていても殆んど手揚げをする。1縄で数尾（大きいのは60Kg）漁獲する時もあれば皆無の時もある。漁場は伊江島から伊是名、国頭にかけての沿岸域である。

(13) 底延縄（アーラ）…………… 勝連漁業協同組合

大型のハタ類を対象とした延縄漁法は県内で数漁協で行われているが、本漁法は勝連漁協所属の漁業者が、数日間の航海で、他の魚種を対象とした底延縄を行いながら漁場によってアーラミーバイ（大型はた類）を狙う漁法である。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図1-1)

(ロ) 枝縄の構成図 (図1-2)

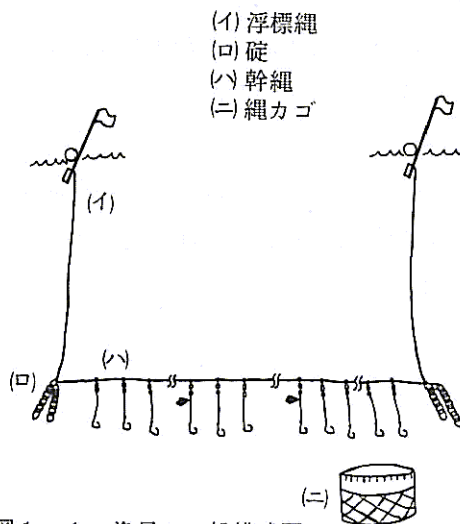


図1-1 漁具の一般構成図

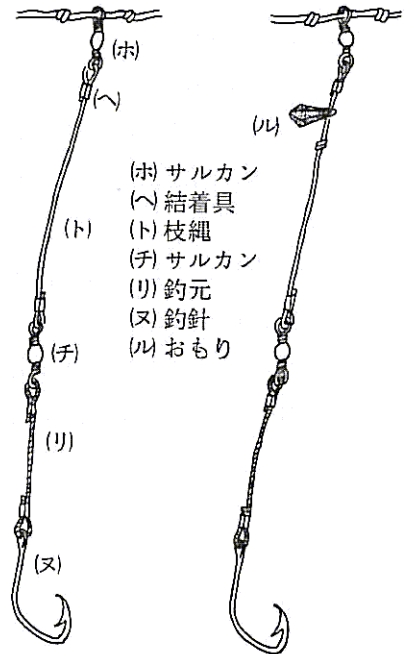


図1-2 枝縄の構成図

(ハ) 漁具の仕様 (表 1-1)

表 1-1 漁具の仕様 [2 鉢 (1 組) 分]

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 一 一	イ 浮標縄	ポリプロピレン (PP)	3 mm 約 200 m	2 本	水深の 1.4~1.5 倍 チェーン
	ロ 碇	鋼	4~5 Kg	2 本	
	ハ 幹縄	ポリプロピレン (PP)	3 mm 3,000 m	1 本	
	ニ 縄カゴ	ゴム、鋼	50cm × 100 cm	2 個	
図 一 二	ホ サルカン	真ちゅう	3/0 号	300 個	タル型
	ヘ 結着具	鋼		1,200 個	ロック
	ト 枝縄	ナイロンテグス	150 号 3 m	300 本	
	チ サルカン	真ちゅう	3/0 号	300 個	タル型
	リ 釣元	鋼	ワイヤー 34~35 番 30cm	300 本	
	ヌ 釣針	鋼	3~4 号、30 号 (マグロ釣針) (マチ釣針)	300 本	
ル おもり	鉛	30 号	30 個	枝縄 10 本ごと	

B 漁法

(イ) 操業方法

本漁具は数日間の航海で底延縄操業を行いながら使用するもので、夕方に投縄し、翌朝に揚げる。したがって、一日のうちで本漁法に費す時間は少なく、他漁法を行うことができる。餌としては、雑魚、サメ肉などである。

(ロ) 漁期、漁場および漁獲物

漁期は周年であるが、操業は主に夏季である。漁場は、古宇利島沖から伊平屋島沖にかけての水深 130~150 m の曾根域で行われる。漁獲物は大型のハタ類数種である。サメも混獲されることが多い。

(14) タイ流し釣 (レンコダイ) 本部漁業協同組合

本部漁協所属船によるタイ流し釣漁業は10年あまりも前から行われその着業数は6～7隻を数える。漁場は名護及び離島海域の水深150～300mの砂、砂礫帯である。周年操業も可能であるが普通9月～翌年1月頃までである。ここで示す漁具、漁法はサバニ(2トン)に一人乗って行っているものの紹介である。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図1-1)

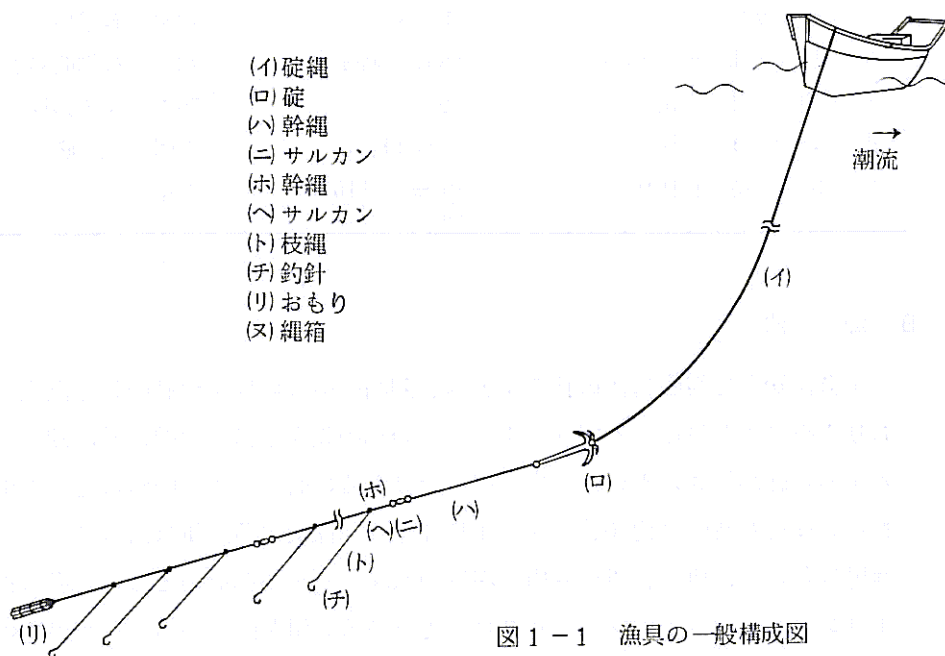
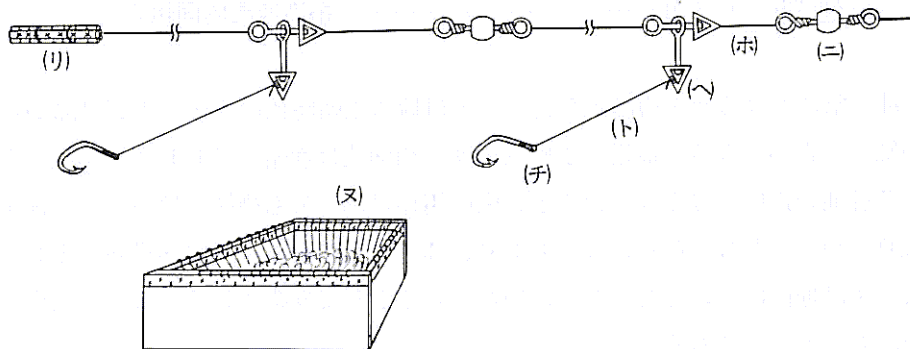


図1-1 漁具の一般構成図

(ロ) 各部分図 (図1-2)



(イ) 漁具の仕様 (表 1 - 1)

表 1 - 1 漁具の仕様 (1 組分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	碇 縄	ポリプロピレン (pp)	3 mm ~ 4 mm	1 本	水深の 1.5 倍以上
ロ	碇	鉄	6 分 (10~15Kg)	1 個	鉄筋、自船の碇
ハ	幹 縄	ポリプロピレン (pp)	3 mm ~ 4 mm 3 m	1 本	
ニ	サルカン	鋼	3 / 0	7 個	タル型 10 m 間隔に 1 個当り
ホ	幹 縄	ポリプロピレン (pp)	3 mm 72 m	1 本	
ヘ	サルカン	鋼	3 × 3	70 個	親子型
ト	枝 縄	ナイロンテグス	28号 60cm	70 本	枝縄間隔 1 m
チ	釣 針	鋼	19号	70 本	マチ釣針
リ	お も り	鉄	3 ~ 4 Kg	1 個	鉄 筋
ヌ	縄 箱	FRP	30 cm × 110 cm 高 1 辺	1 箱	

B 漁 法

魚群探知機で海底起伏の状態を調べ、凹凸の少ない砂又は砂礫帯を潮上から“おもり”を投入し最後の幹縄(図 1 - 1)の(イ)の先端を自船の碇に結び碇と一緒に投入する。碇が海底に着いたら少し持ち上げ潮流に船を流す。同時に延縄も引っぱられる。縄待ち時間は約30分~50分 1日 4~5回操業する。餌は冷凍サンマの肉切り。漁場は名護湾、伊江、伊平屋周辺海域の水深 150 ~ 300m のところ。漁獲物はキダイ(レンコダイ)アマダイ、ビタロー等である。餌が動くから喰いが良いので潮流が極小の時はこの漁法は行わず瀬物 1 本釣か曳縄等の操業をする。

(15) 底延縄 (サメ類) 糸満漁業協同組合

沖縄県におけるサメ釣漁業が古いことは琉球王朝時代のサメ鱈の貿易品からうかがい知ることができる。最近の表層性のサメ釣漁業は漁船のFRP化、ペイント使用による肝油の需用がなくなったこと、肉の用途はあっても極端に値段が安く漁業として成り立つ要素がなくなったこともあり、昨今はただ有害駆除の漁獲対象として考えられ、糸満地区においても専業者はいなく兼業として操業される。ここで紹介する漁具漁法もその一つである。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1 - 1)

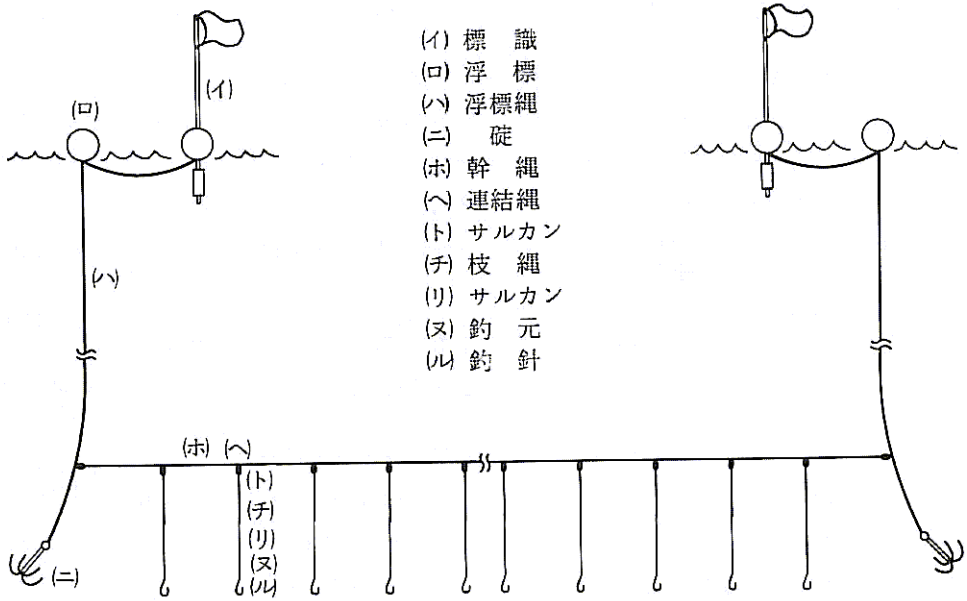


図 1 - 1 漁具の一般構成図

(ロ) 枝繩の構成図 (図 1 - 2)

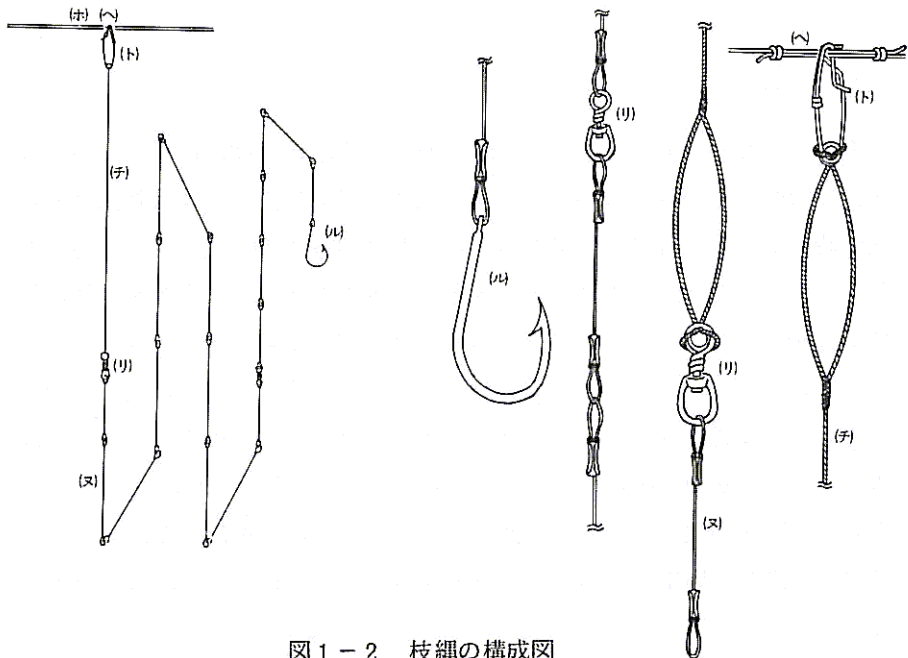


図 1 - 2 枝繩の構成図

バ) 漁具の仕様 (表 1 - 1)

表 1 - 1 漁具の仕様 (1 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	標識竿	グラスファイバー	3 ~ 3.5 m	2 本	黒、赤 オレンジ色
	旗	布	40 ~ 45 cm	2 枚	
	浮子	塩化ビニール	38 cm SANYO No.14	2 個	
	おもり	鉛	3 Kg	2 ケ	
ロ	浮標	塩化ビニール (硬質)	38 cm SANYO No.14	2 ケ 又は 3 ケ	1 ケは中間浮標
ハ	浮標縄	ポリプロピレン (PPG)	4.5 ~ 6 mm 150 ~ 250 m	2 本 又は 3 本	1 本は中間浮標 縄
ニ	碇	鉄 (鉄筋)	5 ~ 6 Kg 四爪	2 ケ	中間は 3 Kg 程度 の鉄筋
ホ	幹縄	クレモナ	8 匁 1,800 ~ 2,500 m	1	{ 45 ~ 50 m の 40 ~ 50 本つなぎ
ヘ	連結縄	"	" 約 20 cm	40 ~ 50 本	
ト	サルカン	鋼	スナッチフック C 大	"	SBL サルカン付
チ	枝縄	ポリエステル	4.5 m マンセン 8 番	"	
リ	サルカン	鋼	SBL 12 mm	"	くさり 16 ~ 18 本つなぎ
ヌ	釣元	ステンレス	15 番線 1.8 mm 2.0 m × 2.2 m	"	
ル	釣針	鋼	クエ釣針大	"	

B 漁法

漁船 (FRP 3 トン) に 1 人 ~ 2 人乗船し漁場に日没前に着くようにし、着いたら魚探で海底状況を見て餌がけして潮を斜め受けして投縄し、翌朝揚げる。慶良間方面の時は島近くで投錨し休息する。近ければ帰港する。漁具は遊泳力があって強大なサメであることから釣針も太く大きく釣元もステンレス番線を鎖状に作って使う。枝縄は 40 ~ 50 本である。対象とするサメは沿岸性が強いイッコウ (いたちざめ) 主体に、ナカー (ひらがしら)、カシー (しゅもくざめ) 等の比較的沖合性のサメである。砂礫帯にみられるネコザメ、ナヌカザメ等も釣獲される。漁場は沿岸域の水深 40 ~ 100 m の瀬礁に近いところで海域はルカン礁、浮の曾根の海域、渡嘉敷南 ~ 南西、座間味島北、渡名喜島南西等であるが海底に黒褐色の藻があるところは釣獲は悪い。漁期は周年であるが、4 月 ~ 10 月が釣獲率は高い。餌はウツボが最も良く、カツオ、エイ (切り身)、豚のあぶら等が良い (餌持ちも良い)。サメはどん欲な反

面、腐敗餌は食しない。揚縄の時サメがかかっていたら（殆んど生きている）前進しながら予備縄を枝縄にとりつける。船はサメに引かれるが弱ったところでたぐり寄せてモリか包丁で刺し殺す。船べりはサメ皮で傷つくので防傷材をとりつける。なお漁場は同じ場所は続けて2回は操業しない（喰いが悪い）、1漁場は2ヶ月後に再操業する。氷蔵はせず、船に引き上げられなければ尾鰭をロープで結んで、引いて帰港する。5～6尾釣針にかかっても3尾程度しか漁獲されない。

(16) 底延縄（アイザメ類）…………… 沖縄市漁業協同組合

アイザメ類の肝臓にスクアレンが含まれ、それが健康原材料として利用されることからアイザメ類の需用が高くなり、漁業として成立するようになった。しかし現在は沖縄市で専門家が1名、勝連で兼業1人、その他糸満、名護、本部地区で1本釣の際副次的に漁獲している状況である。ここで示す漁具、漁法は沖縄市の専門者のもので図1-1、図1-2、表1-1が底延縄、図2-1、図2-2、表2-1が底立延縄である。

A 漁 具

(a) 底延縄

- (イ) 一般構成図（図1-1）
- (ロ) 枝縄の構成図（図1-2）
- (ハ) 漁具の仕様（表1-1）

(b) 底立延縄

- (イ) 一般構成図（図2-1）
- (ロ) 枝縄の構成図（図2-2）
- (ハ) 漁具の仕様（表2-1）

B 漁 法

5トンのFRP船にラインホーラー1号（油圧式）、ロランA、魚群探知機（湿式）、自動操舵装置を装備し、2人乗船して夕方投縄、翌朝揚縄する。12時に氷0.5トンを積んで出港し、餌（トビイカ）を輪切りあるいは開いて角切りにする。午後2時頃漁場（海底谷の両斜面域が良い）を選定し、ラジオブイと発泡スチロールの浮標、浮標縄、碇と投入し、幹縄が潮を横から受けるように延える、碇、浮標ラジオブイを投入して終了し帰港する。翌早朝出港し揚縄する。揚縄に要する時間は5～6時間、根がかり、縄切れし反対側から揚げると8時間程度はかかる。アイザメは氷水にして帰港する。揚縄日の夕方は延縄しない。翌夕方延縄する。漁場は沖縄一円の水深600～1,000mの範囲であるが、多くは沖縄本島久高島～与論近海までが主漁場。（与論近海の時2～3日航海で氷は1トン積む）、漁期は周年、餌持ちはイカ類が良い。ハモ、ウツボも良いがサメ肉は喰いはよくない。漁獲物は3～4種類でアイザメ（おきなわやじりざめ）タロウザメ、クルー（もみじざめ）、

ニアウカンザメ等である。なお底延縄は漁具損耗が大きいので底立延縄（図2-1
 図2-2、表2-1）を併用している。

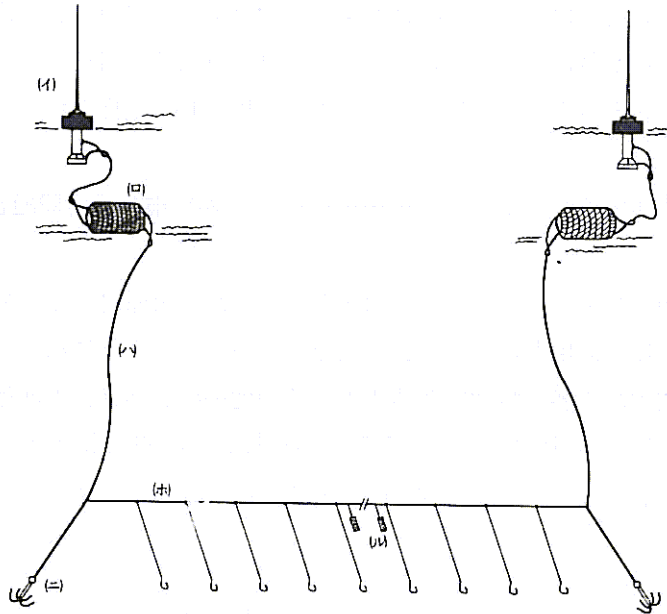


図1-1 漁具の一般構成図

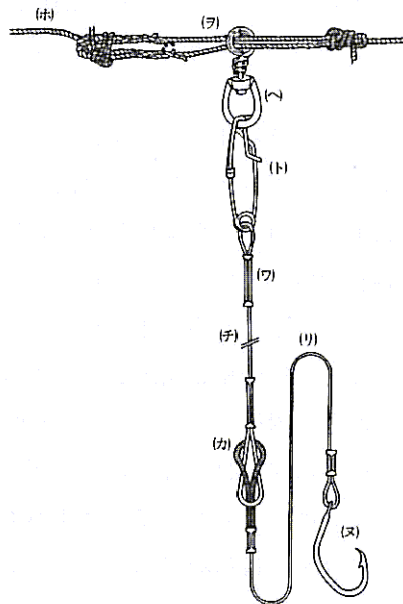


図1-2 枝縄の構成図

表 1-1 漁具の仕様 (1組分)

底延縄

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	ラジオブイ			2ヶ	両端に1ヶずつ
ロ	浮標	発泡ポリスチレン (ポリエチレン)	直径60cm 長さ 105 cm 浮力 250 Kg	2個	通称発泡スチロール
ハ	浮標縄	ポリプロピレン	6 mm 水深の1.5~2.0 倍	2本	ダイヤロンG
ニ	碇	鉄	6分鉄筋 10Kg	2ヶ	4爪
ホ	幹縄	ポリプロピレン	5 mm 4500 m	1本	10mもの450本つなぎ
ヘ	サルカン	鋼	SBL 12mm	450個	12号
ト	サルカン	鋼	2.0 × 8.0 mm (太さ)(長さ)	450個	スナッチフック (ブランチハンガー)
チ	枝縄	ナイロンテグス	120号 2 m	450本	ニュークロ印
リ	釣元ワイヤー	鋼	#31 1 × 7 10 cm		
ヌ	釣針	鋼	40号	450本	マチ釣針⊕印
ル	おもり	鉄	3~5 Kg	5本	鉄筋、枝縄50本間に 1本
ヲ	連結縄	ポリプロピレン	5 mm 20~30cm 2重		ダイヤロンG
ワ	ロック	真ちゅう			1枝縄に4個
カ	アーマ スプリング		10 cm		ワイヤーとナイロン テグスの摩もう防止

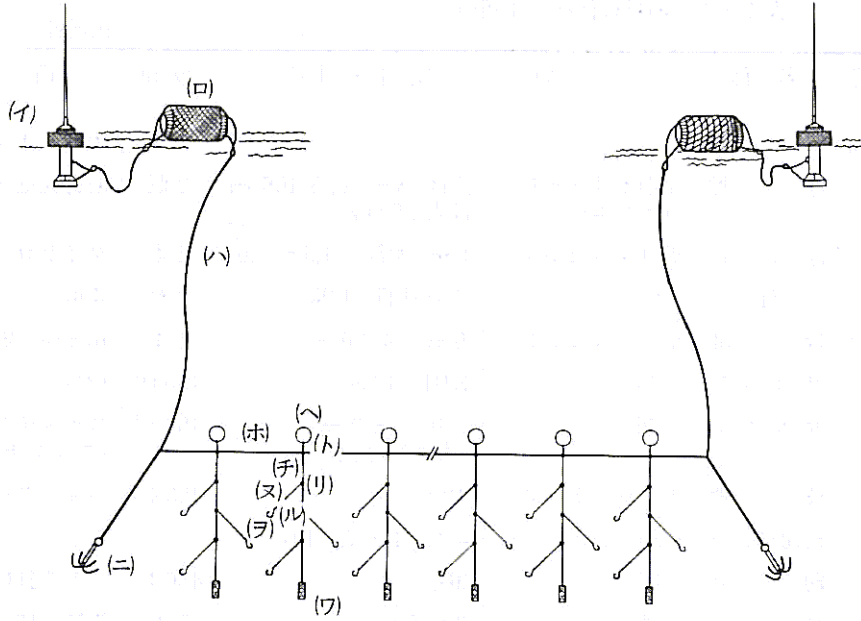


図 2 - 1 漁具の一般構成図

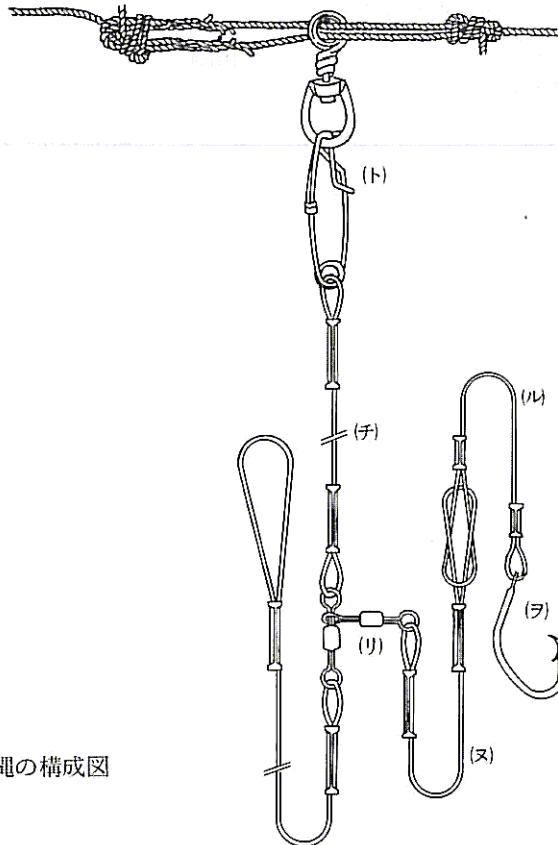


図 2 - 2 枝縄の構成図

表2-1 漁具の仕様 (1 幹縄1 立縄分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 二 一	イ ラジオブイ			2ケ	両端に1ケずつ
	ロ 浮標	発泡ポリスチレン (ポリエチレン)	直径60cm 長さ105cm 浮力250Kg	2個	
	ハ 浮標縄	ポリプロピレン	6mm水深の1.5~2.0倍	2本	ダイヤロンG
	ニ 碇	鉄	6分鉄筋 10Kg	2ケ	4爪
	ホ 幹縄	ポリプロピレン	5mm 5,000m	1本	20mもの250本つなぎ
図 二 一	ヘ 浮子	ABS樹脂	4A-8、4A-15	1個	ビニー印
	ト サルカン	鋼	2.0×80mm	1個	スナッチフック (ブランチハンガー) SBL 12号付
	チ 道糸	ナイロンテグス	150号 2.5m	4本	ニュークロ印
	リ サルカン	真ちゅう	クレーン親子型 4/0×3/0	3個	ニッケルメッキ
	ヌ 枝糸	ナイロンテグス	120号 35cm	3本	ニュークロ印
	ル 釣元ワイヤー	鋼	#31 1×7 15cm	3本	
	ヲ 釣針	〃	40号	3本	マチ釣針 ⊕ 印
ワ おもり	鉄	4分1m 900 ^g ~1Kg	1ケ	鉄筋	

(17) 底延縄 (アイザメ類) 勝連漁業協同組合

アイザメ類を対象とした延縄は、昭和59年までは勝連、沖縄市、浦添市、糸満漁協で操業されていたが60年末には沖縄市で専門的に一隻行われているにすぎない。ほかの漁協では1~2隻程度が肝油業者から注文を受けて深海1本釣漁業のかたわら漁獲している。ここで紹介するものは勝連漁協所属船で使われている漁具及び漁法である。なおアイザメ類の肝臓にスクアレンが含まれていてスクアレンが健康原材料に使用できることからアイザメ類が注目されている。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1-1)

(ロ) 枝縄の構成と釣針見取図 (図 1-2)

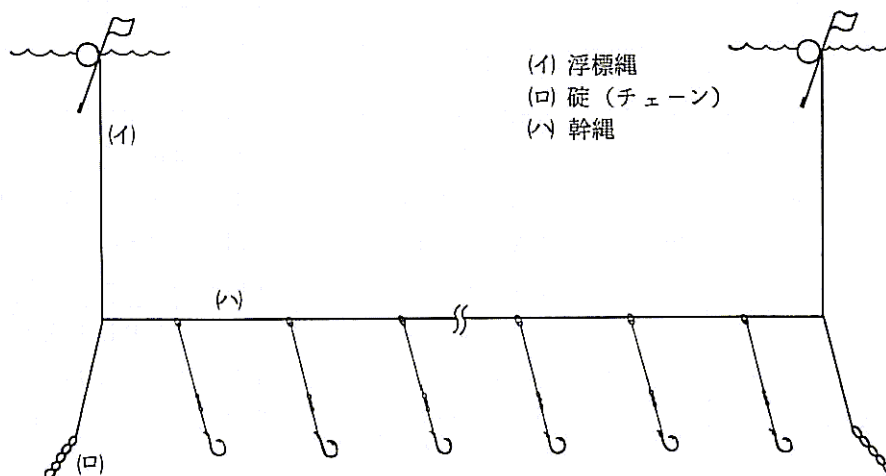


図 1-1 漁具の一般構成図

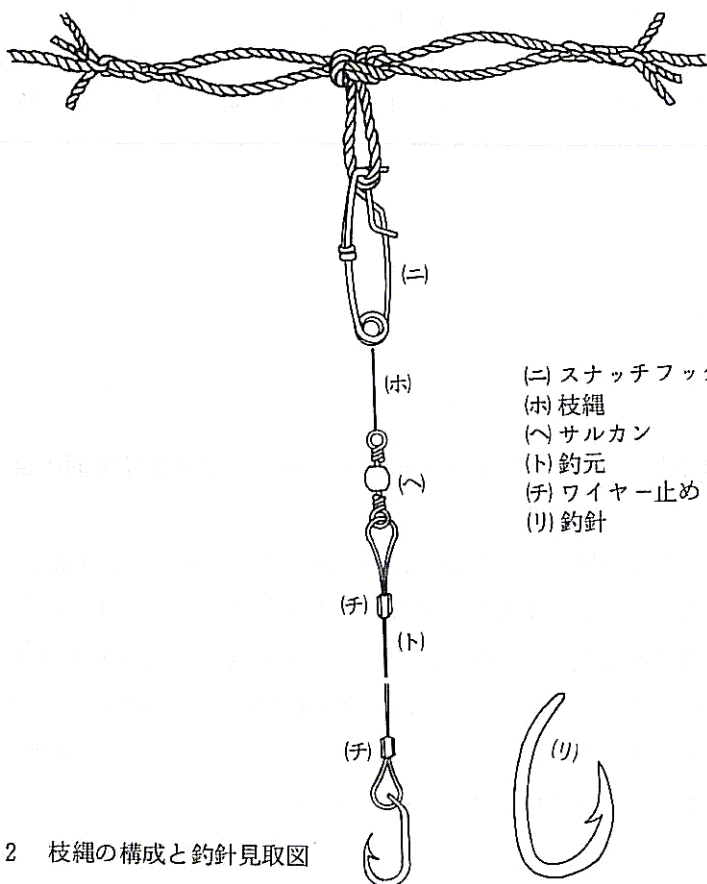


図 1-2 枝縄の構成と釣針見取図

わ) 漁具の仕様 (表 1 - 1)

表 1 - 1 漁具の仕様 (1 延縄分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
☒ 一 一	イ 浮標縄	ポリプロピレン (PP)	5 mm	2 本	水深の 1.5 ~ 2 倍
	ロ 碇	鋼	5 分 (4 ~ 5 kg)	2 本	チェーン
	ハ 幹縄	ポリプロピレン (PP)	5 mm 5,000 m	1 本	枝縄間隔 10 ~ 15 m
☒ 一 二	ニ スナッチフック	ステンレス	小	100 個	
	ホ 枝縄	ナイロンテグス	120 ~ 150 号 1 m	100 本	
	ヘ サルカン	真ちゅう	4 / 0 号	100 本	タル型
	ト 釣元	鋼	#34 20cm (ワイヤー)	100 本	
	チ ワイヤ止め	アルミ		200 個	ロック
リ 釣り針	鋼	3 又は 4 号	100 本	マグロ釣り針	

B 漁法

3 トンの FRP 漁船に乗組員は 2 人である。漁船装備は自動操舵装置、魚群探知機、ラインローラー 2 号のそれぞれ 1 台で、漁場は津堅島沖から久高島沖合の水深 500 ~ 1,000 m、餌にはムロを半切りか、イカを切り身にして使う。操業は投縄は午後 4 時 ~ 5 時頃には終って帰港し翌日昼前に出港して揚縄し、漁獲物は水氷にして保蔵する。餌付けをして投縄し帰港して翌日同時刻頃出港する。漁期は周年で、漁獲物はアイザメ類 2 ~ 3 種類、ウツボ類で、これは持ち帰るがその他は投棄する。

(18) 底立延縄 (マチ類) 糸満漁業協同組合

この漁法は、昭和 49 年 11 月普及員と伊江漁協青年グループの間で鹿児島県から導入試験操業されたのに始まる。この漁法は従来的一本釣りより漁場が一度に広く利用でき特にヒチュウマチ (あおだい)、プープーマチ (ひめだい) には威力を発揮し、漁獲量もそれ相当にあがって一時は大変ないきおいで一本釣りからこの漁法にきりかえた船が続出した。特に糸満を中心に那覇、伊江、八重山に広がった。しかし不慣れと、揚縄機の不備、操業人数が 3 ~ 4 人必要なことと併せて漁獲量が安定継続せず、乱獲漁法的

要素が強いことから地域によってこの漁法を排除するところも出て、現在糸満で10隻程度が操業しているのみである。ここで示す漁具、漁法は糸満地区の7トン級の船に3～4人乗って操業しているものの紹介である。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1)
- (ロ) 幹繩と浮子側の構成図 (図1-2)
- (ハ) 枝元サルカンのつけ方 (図1-3)
- (ニ) おもり付近 (図1-4)
- (ホ) 漁具の仕様 (表1-1)

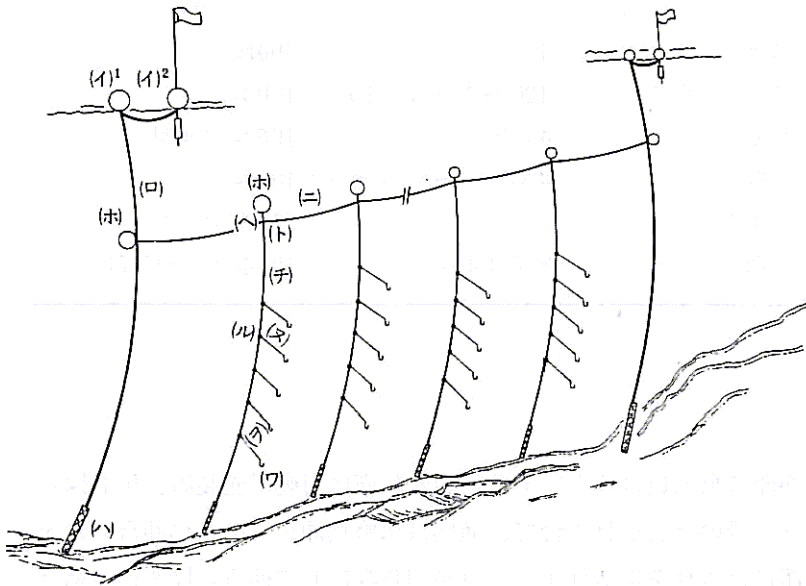


図1-1 漁具の一般構成図

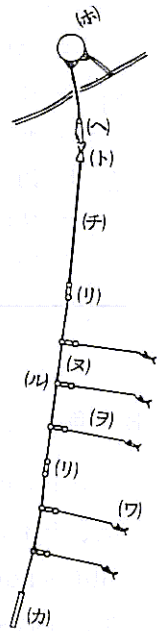


図1-3 枝元サルカンのつけ方

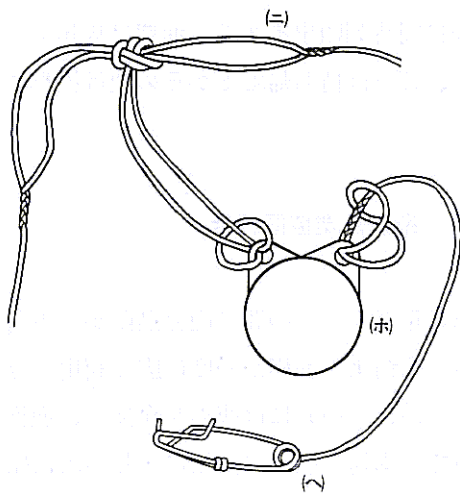


図1-2 幹繩と浮子側の構成

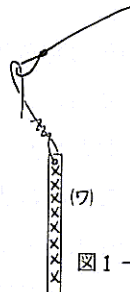
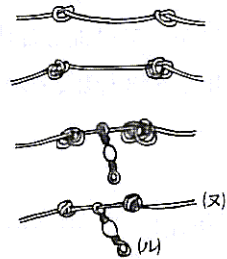


図1-4 おもり付近

表 1-1 漁具の仕様 (1 幹縄 1 立縄分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ-1	浮標	塩化ビニール	38cm SANYO No.14	2本	オレンジ色
イ-2	標識	グラスファイバー 及びポリエチレン	G 3	2個	竿は竹も使う 旗は布で黒か紫
ロ	浮標縄	ポリプロピレン (PP)	4~4.5 mm 300 m	2本	ダイヤロンライト ロープ
ハ	碇	鉄	鉄筋 径32mm 長さ85 cm (4~5 Kg)	2ヶ	
ニ	幹縄	ポリプロピレン	4~4.5 mm 28~30 m	1本	ダイヤロンライトロープ
ホ	浮子	ABS' 樹脂	4 A-8 径110 mm×12 mm (穴径)	1個	ビニー 自重190g 浮力600g
ヘ	サルカン	鋼	スナッチC型大	1個	スナッチフック
ト	〃	真ちゅう	双葉中	1個	ニッケルメッキ
チ	道糸	ポリエチレン	マルロン60(赤) 4~6 m	1本	四つ編
リ	サルカン	真ちゅう	タル型 #1~2	2個	ニッケルメッキ
ヌ	幹糸	ナイロンテグス	70~90ポンド 2.3~2.5 m	6本	パーロン印
ル	サルカン	真ちゅう	タル型 2~3号	5個	ニッケルメッキ
ヲ	枝糸	ナイロンテグス	径0.8 mm 80cm(14~16号)	5本	モージョン印
ワ	釣針	鋼	19~21号	5本	㊦むつ針
カ	おもり	鉄	鉄筋4分 85 cm	1ヶ	約800g

B 漁具の仕立て

表 1-1 の漁具の仕様のように幹縄はさがり (立縄) との関係で28~30mで両端にツボが作られ所用の幹縄はそれぞれ連結される。その連結部のツボに図 1-2 のように両耳つきの耐圧浮子の片耳を通してとりつけられ、片方にはさがり (立縄) 結着用縄 (長さ50cm程度) の先にスナッチフックがとりつけられる。立縄は道糸の上端に双葉サルカンをとりつける (操業時に浮子つきスナッチフックと着脱) 幹糸のナイロンテグス部は中間で分離され、サルカンがとりつけられる。枝元サルカンは幹糸のナイロンテグスカサルカンの穴から抜けないように図 1-3 のように三重の止め結びで止めサルカンをいれて、3~4 m 離して同じようにして止める。おもりは鉄筋を使い、図 1-4 のように幹糸ナイロンテグスのツボにひっかけるため鉄筋は片先に穴をあけステンレス番線を L 状に作っておいてそれぞれセットする。

C 漁 法

7トンのFRP船(85馬力)、装備は泉井式ラインホーラー2号、電動一本釣機(乗組員相当数)、魚群探知機(28、50KCカラー)、無線電法1W、ロランA及びC乗組員は3~4人。

D 漁 法

(イ) 餌の種類と使用方法

冷凍若イカ(アオリイカとケンサキイカの混りを移入し1箱15Kg(1,100~1,300尾入れ)を丸ままで胴元を1回がけにし、大きいのは輪切り2枚にして使う。

(ロ) 操業方法

漁場は曾根で水深は250m以浅域である。魚探で海底の形状、魚群反応を確認する。流況などを勘案して投縄するが冬期は特に揚縄を考え、風波を前方より受けるように配慮する。漁具は連結幹縄(3,000~4,200mで1立縄(さがり)に枝条(釣針)5本付で立縄(さがり)の数は日中は105~125本、朝、夕の2回は150本使用する。投縄は右舷前方の魚艙のあるところで行い、立縄係りは前方、幹縄係りは後方側に配置する。漁具の立縄(さがり)は、硬質ポリエチレン製タライ(径63cm、高さ28cm、61ℓ入れ)又は丸カゴ(径66cm、高さ22cm)に入れる。幹縄カゴ(角型で72cm×47.5cm、高さ34cm)にはステンレス棒を立て張りにし、それに順序よく立縄に結着するためのスナッチフックを掛けておく、投縄の船速は5~8ノット。投縄には15~20分、揚縄に約1時間、投縄終了30分~40分後に投縄始めのところから揚縄する。漁獲物はそのつど甲板上のアイスボックスに入れて揚縄後かあるいは漁獲量に応じて魚艙内に氷蔵する。夏は1日8回、冬は6回操業する。

E 漁期、漁場および漁獲物

周年操業で、漁場は奄美大島以南の曾根域で主たる漁獲物はヒチューマチ(あおだい)、プープーマチ(ひめだい)、夏~秋に漁獲量が多い。年間17~19航海延べ約200日間、一本釣機を装備しているのは漁の状況、流況等を考慮し、きりかえ操業する。

(19) 底立延縄 (マチ類) 勝連漁業協同組合

マチ類を対象とした立延縄漁具は他地区にもあるが、本漁具は勝連漁協所属船で使用されているものである。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1-1) (ロ) 立縄の構成及び立縄と幹縄の結着図

(ハ) 漁具の仕様 (表 1-1) (ニ) 縄カゴ (図 1-2)

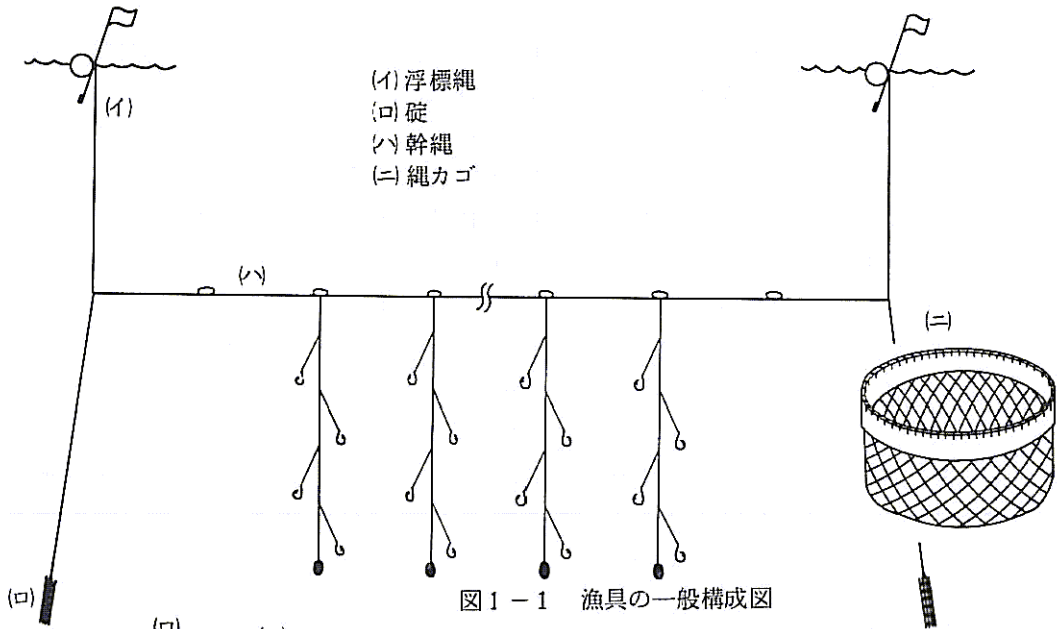


図 1-1 漁具の一般構成図

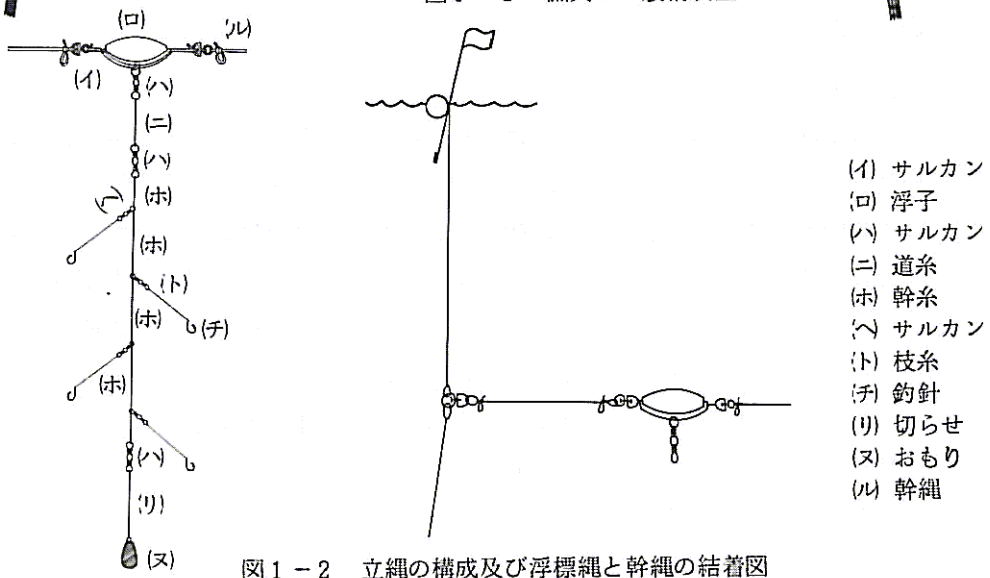


図 1-2 立縄の構成及び浮標縄と幹縄の結着図

表 1-1 漁具の仕様 (1立延縄分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
図 一 一	イ 浮標縄	ポリプロピレン (PP)	4 mm	2 本	水深の 1.5~2 倍 (6 Kg)
	ロ 碇	鋼	4 分	4~5 本	
	ハ 幹縄	ポリプロピレン (PP)	4 mm 2,580 m	1 本	釣針掛けはゴ ム張り
	ニ 縄カゴ	鋼	高 50 cm 径 100 cm	1 個	
図 一 二	イ サルカン	鋼	1 号	1 個	松葉型
	ロ 浮子	合成樹脂	AC-5	1 個	
	ハ サルカン	真ちゅう	5/0 号	3 個	タル型
	ニ 道糸	ナイロンテグス	100~120号 4.5 m	1 本	
	ホ 幹糸	ナイロンテグス	100~120号 1.5 m	5 本	
	ヘ サルカン	真ちゅう	3/0 号	4 本	タル型
	ト 枝糸	ナイロンテグス	50 号 1.5 m	4 本	
	チ 釣針	鋼	19 号	4 本	マチ釣針
	リ 切らせ	ナイロンテグス	100 号 10 cm	1 本	
	ス おもり	鉛	30 号	1 本	
ル 幹縄	ポリプロピレン (PP)	4 mm		立縄間 30 m	

B 漁 法

(イ) 操業方法

立延縄漁業を行っている漁業者は他地区にも多いが、本漁具の特徴は、3トン程度の小型船に一人乗り、操業をしているものであり、通常の立延縄は幹縄と立縄が別々に納められ、投縄時に接縄されるが、本漁具は、それらが、一つの縄かごに納められ、あらかじめ幹縄と立縄は接続されているので、一人でも投縄が行いやすい。立縄を入れる時は下方のおもりから投入する。その他立縄接続部周辺はもつれの際一人でも処置しやすいように簡単に分解できるような工夫がされている。以前は立縄毎の釣針の数は7本であったが、近年漁獲量が減ったため、4本に減らしている。なお立縄は85本使う。

(ロ) 漁期、漁場および漁獲物

漁期は周年である。漁場は津堅島沖の曾根域でアカマチを主に対象とする場

合は水深 300 m 以深で操業するが、シチューマチを対象とするときは 150～200m で行う。

(20) 浮延縄 (マンビキ) 恩納村漁業協同組合

恩納村漁協所属船のマンビキ (しいら) 延縄漁法は約10年前から行われ、約10人～20人程度操業している。この漁法は毎年9月から11月中旬頃にかけて残波岬北東から万座毛地先にかけての水深50～100 mのところで浮力のある縄を1巻～2巻使って浮標縄から幹縄全て一本から成り、縄は常に定置しておいて見まわりをしながらマンビキがかかった時に漁獲し釣針に餌をつけて放置する。定置網や刺網漁業者の副業的なものである。マンビキは一般に刺身に利用され値段は500円～1,000円/Kgもするとのことである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図 (図1-1)
- (ロ) 枝縄の幹縄へのとり付け方 (図1-2)
- (ハ) 漁具の仕様 (表1-1)

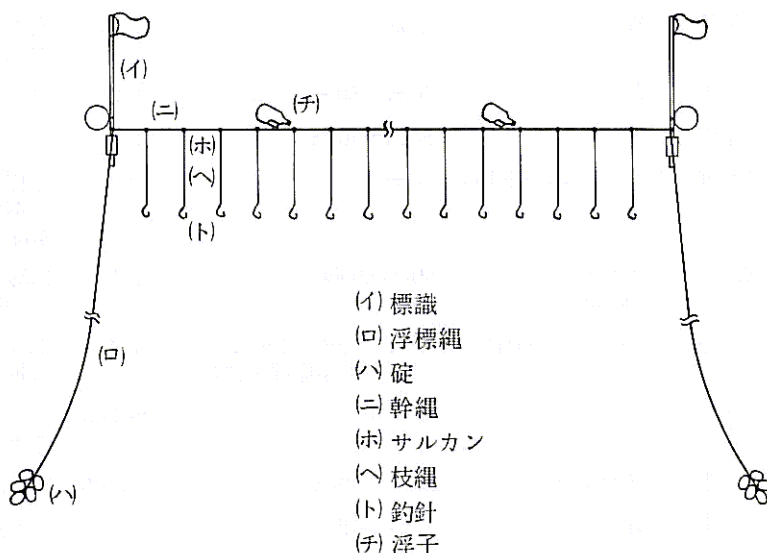


図1-1 漁具の一般構成図

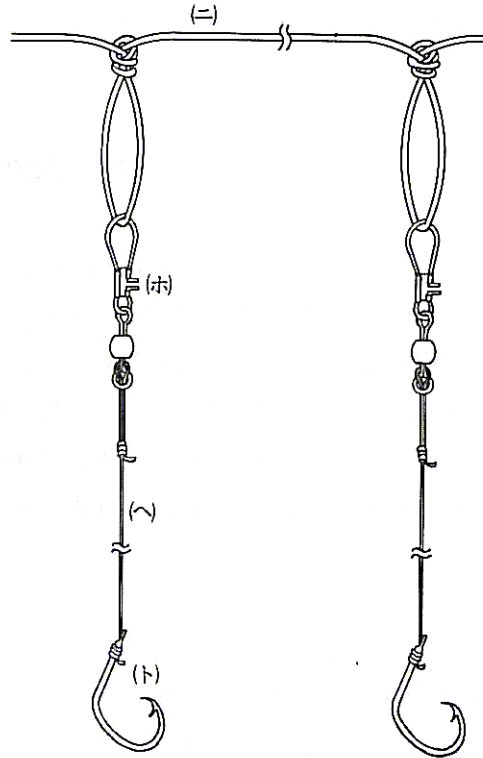


図 1-2
枝縄の幹縄へのとり
付け方

表 1-1 漁具の仕様 (1組分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	標識竿	竹	2 m	2 本	石おもり、鉄筋おもり付
	旗	布	50cm × 50cm	2 枚	フロ敷
	浮標	ハイゼックス	径30~40 cm	2 個	
ロ	浮標縄	ポリプロピレン (PPG)	5 mm	2 本	浮標縄と幹縄は一本の縄 水深の 1.5 倍
ハ	碇	ポリエチレン (砂袋)	50 ~ 60 Kg	2 ケ	15Kg × 3 ~ 4 袋 (ポリ袋)の 2 組
ニ	幹縄	ポリプロピレン (PPG)	5 mm 200~400 m 両浮標縄を含む	1 本	ねずみ色浮標縄 と同じ縄
ホ	サルカン	鋼	5 / 0	15~30個	インターロック スナップ付
ヘ	枝縄	ナイロンテグス	80号 80cm	15~30本	枝縄間 4 ~ 5 m
ト	釣針	鋼	32号~35号	"	マチ釣針
チ	浮子	ポリエチレン (軟質)	1,500 ml入 容器等	3 ~ 6 個	洗剤空容器使用 (ハイター)

B 漁 法

恩納村地先のリーフの外側で水深50～100mのところを設置する。一本の浮く縄（PG 5mm）を200m～400m使い、浮標縄にして枝縄を15～30本つけて設置してある。クリ舟やボートで定置網や刺網を揚げ終って来てから見巡りし、風上から幹縄をたぐって船を移動させながら餌がついてなければつけ、マンビキ（しいら）がかかっているれば幹縄を船べりにひっかけ、枝縄をたぐり寄せて漁獲（手かぎも使う）し、釣針に餌（冷凍ムラサキイカの角切り）をつけて投げ入れる。1日に何回か見巡りして同じ方法で漁獲する。マンビキは天気が悪くなれば釣れる。朝まずめ夕まずめが良い。この漁具、漁法は1万円たらずの漁具資材費で簡単な操業方法で行われ、大漁する時は1日300Kgも水揚げする。なお枝縄と幹縄の結び方は図1-2のように幹縄で二重の止め結びにしてツボをつくって枝縄のスナッチフックをひっかける方法である。

(21) 浮延縄（マグロ）…………… 那覇地区漁業協同組合

沖縄県のマグロ延縄漁業は殆んどFRPの20トン未満船で59年現在90余経営体、100隻を超す。19トン型の主漁場はパラオ、マイクロネシア海域、フィリピン東、南支那海で10トン未満～15トン型は沖縄周辺海域のN20°以北が主漁場で、周年操業あるいはカツオ竿釣りと兼業する。市場との係わりでマグロ延縄漁船は殆んど那覇市に集中する。装備は近代化され多くの19トン型は1本の幹縄をコイルシフターで自動的に操り入れ出し自動ブザーで枝縄もブランチハンガー（スナッチフック）で直接かける。枝縄はブランチリールで巻き取る。従って幹縄と枝縄は完全に分離される。魚の鮮度保持は水氷で保蔵するのが一般的である。省力化が進み乗組員は6～8人である。反面小型（9トン～15トン型）はまだ縄処理用装備は遅れている。ここで示す漁具は那覇地区所属の19トン型のものである。

A 漁 具

- (イ) 一般構成及び操業見取図（図1-1）
- (ロ) 枝縄の構成図（図1-2）
- (ハ) 漁具の仕様（表1-1）（表1-2）

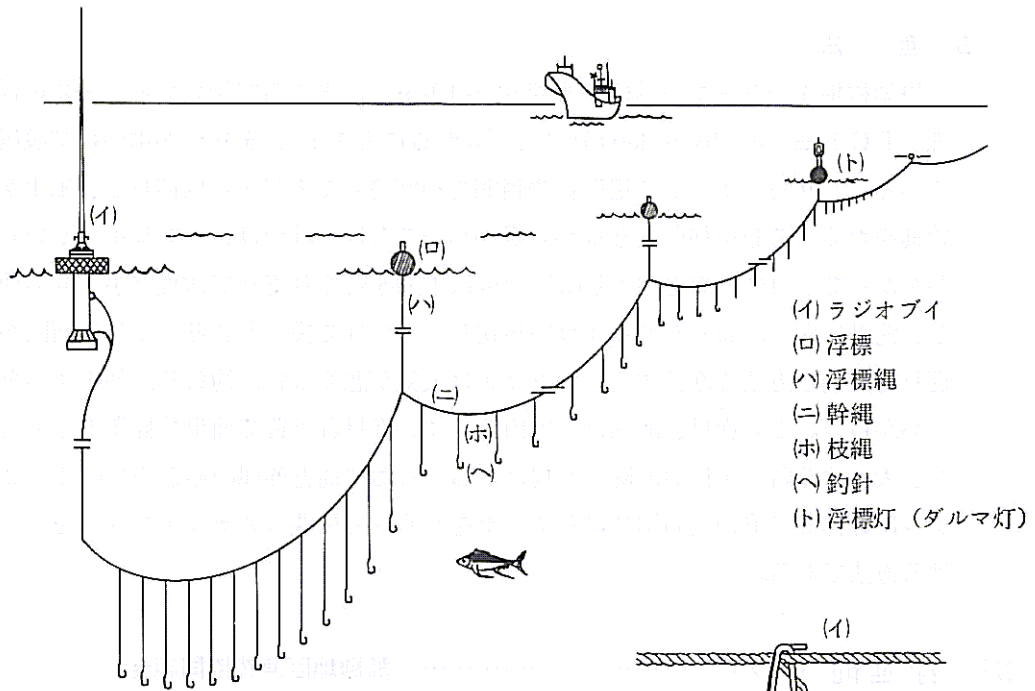


図 1 - 1 漁具の一般構成及び操業見取図

- (イ) 幹繩
 (ロ) スナッチフック
 (ハ) 枝繩
 (ニ)¹ サルカン
 (ニ)² サルカン
 (ホ) ロック
 (ヘ)¹ せきやま
 (ヘ)² せきやま
 (ト) 釣元ワイヤー
 (チ) 釣針
 (リ) おもり (鉛)

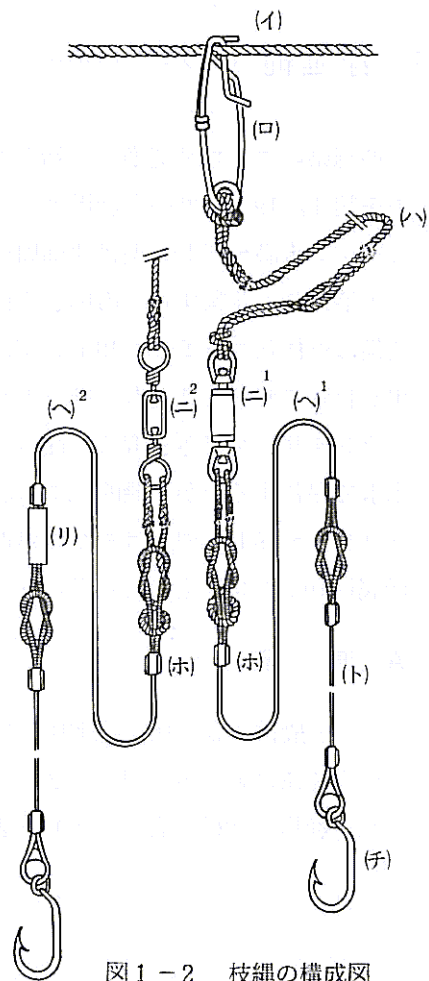


図 1 - 2 枝繩の構成図

表 1-1 漁具の仕様 (延縄一式)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	ラジオブイ			3~4ケ	60~90鉢(浮標)に一個つける
ロ	浮標	プラスチック	ライタック LLM-3	180個	
ハ	浮標縄	テトロン	#9(径5.6mm) 20m	181本	ポリエステル
ニ	幹縄	"	#8(径5.2mm) 113.4Km	1本	"
ホ	枝縄	"	250デニール/28×3×3 15.5m	2,160本	枝間 45m
ヘ	釣針	鋼	環付錆針34号	2,160本	
ト	浮標灯 (タルマ灯)	鉄	6v 3w	10個	亜鉛びき

表 1-2 漁具の仕様 (図 1-2) 数量は延縄一式分

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	幹縄				
ロ	スナッチフック	鋼	L型 3.5 × 130mm	2,520個	
ハ	枝縄	テトロン	250デニール28×3×3		15.5m(長)
ニ ¹	サルカン	鋼	32号	1,500個	鉛付双葉型 先ツボ長さ10cm 二重
ニ ²	サルカル	鋼	12号	660個	箱型
ホ	ロック	鋼	B-No 5	8,640ケ	シルバーロック
ヘ ¹	せきやま	鋼芯綿糸まき	#30/3+9 5.5m	1,500本	
ヘ ²	"	ナイロンテグス	180号 5.5m	660本	ニュークロ印 ツボ長さ 5.5cm
ト	釣元ワイヤー	鋼	#30/3+9 2.3m	2,160本	ツボにアーマスプリング。ロックNo 5
チ	釣針	"	34号	2,160本	
リ	おもり	鉛	3匁	660個	

B 漁法

(イ) 漁船及び装備

19トン型FRP漁船に6~8人乗組み、漁船に冷凍機付の自動保温保冷蔵装備を有し、幹縄の投縄時くり出し機、揚縄時の幹縄捌機(コイルシフター)、枝縄巻取機(ブランチリール)、ラインホーラー等の漁撈装置、無線電話、ファクシ

ミリ等の情報送受信装置、衛星航法、ロラン等の位置確認装置、自動操舵装置等を装備している。

(ロ) 漁法

一航海30日～40日で操業回数は約25回（25日）で一回の操業に180鉢の漁具一式を延縄する。1回の延縄作業は投縄が8時～13時頃までの5時間、揚縄は17時から18時頃開始し翌日の4時から5時まで10時間余りの揚縄時間である。投縄は船尾から行い、幹縄箱から幹縄がくり出し機によってくり出され続けられる。セット時間（縄の長さ）にブザーで知らすので枝縄をつけたり（スナッチフックをかける）この時スナッチフックは幹縄には下から上にはさみつけるように結着する（これは揚縄の時はずしやういことと危険防止のためである。）浮標縄（スナッチフックをかける）をつけて投縄する。投縄指示器は船橋内に取りつけられ、枝縄が13本なら13本でセットされ浮標もランプで表示され、ブザー等で知らされる。船尾では浮標ブザーが鳴り浮標が投ぜられたら数字で自記され延縄鉢数が分るようになっている。幹縄のたるみ、張り具合の調整は船尾のくり出し機の回転調節で行う。なお枝縄は13本づけて1本遊び、従って実際は枝縄は12本になる。浮標縄の手前が一般に遊びとしている。（これは浮標縄投入への余裕づくりと次の枝縄への準備のため）

枝縄間隔は45m、ラジオブイを両端（又は両端と中間）にとりつけ、浮標灯（ダルマ灯）は等間隔で6～7個使う。その間の各鉢ごとにはケイ光管をつけた浮標をとりつけ標識とする。揚縄は油圧式ラインホーラーを使い揚げる。幹縄に枝縄は直接スナッチフックで結着されているので、枝縄係（幹縄の注視とラインホーラーのコントローラーを兼ねる）はサイドローラー上を通過して来た（あるいは通る手前）フックを下に引くようにすばやくはずす。幹縄はラインホーラーを通過して縄受け台で受け、一本の縄となって縄通しパイプ等を通して船尾側船室上の縄箱にコイルシフターできれにコイルされ捌かれ収納される。

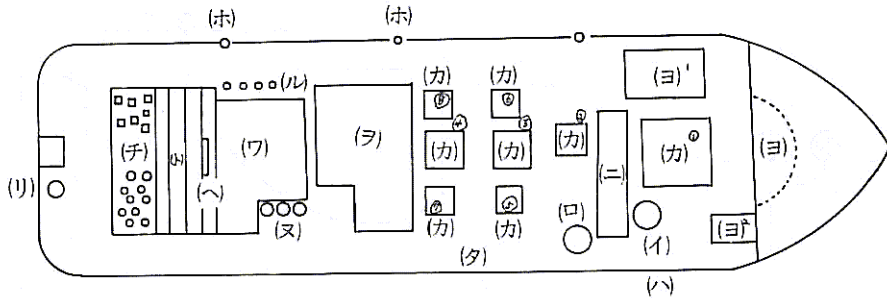
(ハ) 餌料の種類と使用方法

冷凍マイワシとムロを使用し、頭上（脳ずい）から下あご又は口へ釣針先が出るように装餌する。

(ニ) 漁期、漁場及び漁獲物

漁期は周年、漁場はフィリピン東方、パラオ、ミクロネシア海域、南支那海の新南群島海域、漁獲物はマグロ95%（キハダ主体）カジキ5%で釣獲率は0.3～0.8%、漁獲物は15Kg以上のもので生きて漁獲されたものは、えんずい刺し（包丁の先を刺し込むか、プラスチック細棒をえんずいから刺し通す）して即死させ

図1-3 船の機器等の配置図



- (イ)ラインホーラー (ロ)ブランチリール (ハ)サイドローラー (ニ)幹縄スローコンベヤー
 (ホ)幹縄通し (ヘ)幹縄捌機(コイルシフター) (ト)縄箱(4区画)
 (チ)枝縄、浮子置場 (リ)幹縄くり出し機 (ヌ)ラジオブイ置場 (ル)標識灯置場
 (ヲ)操舵室 (ワ)機関室 (カ)魚艙①～⑧ (ヨ)漁具資材倉庫
 (イ)野菜用冷蔵庫 (ロ)肉用冷蔵庫 (ハ)舷門

る。鰓や腹を引き出し除去するが、一般に腹は両側の鰓ぶたを切除して腹は切りさかず、帰港後水揚げ時に切りさく（これは鮮度保持に良いということと省力化にもなる）。全体を洗った後多数穴のあいたビニールに包んで尾柄部を結び、先につくった水氷（普通海水6、清水4の割合で -1° 内外にひやされる）に頭から先に入れる。冷凍機を温度セットし自動的に冷やす（ -1°C は常温）

(22) 浮延縄（マグロ）…………… 伊良部町漁業協同組合

この漁具、漁法は10トン型のFRP漁船に2～3人乗り組み、沖縄から与那国までの近海を主漁場として周年操業している船の紹介である。

A 漁 具

- (イ) 一般構成図（図1-1）
 (ロ) 枝縄の構成図（図1-2）
 (ハ) 漁具の仕様（表1-1）

B 漁 法

漁船装備はラインホーラー2号、ブランチリール、自動操蛇装置
 無線電話、ロラン、レーダーで漁場は北緯 20° 線以北久米島近海まで。使用鉢数は

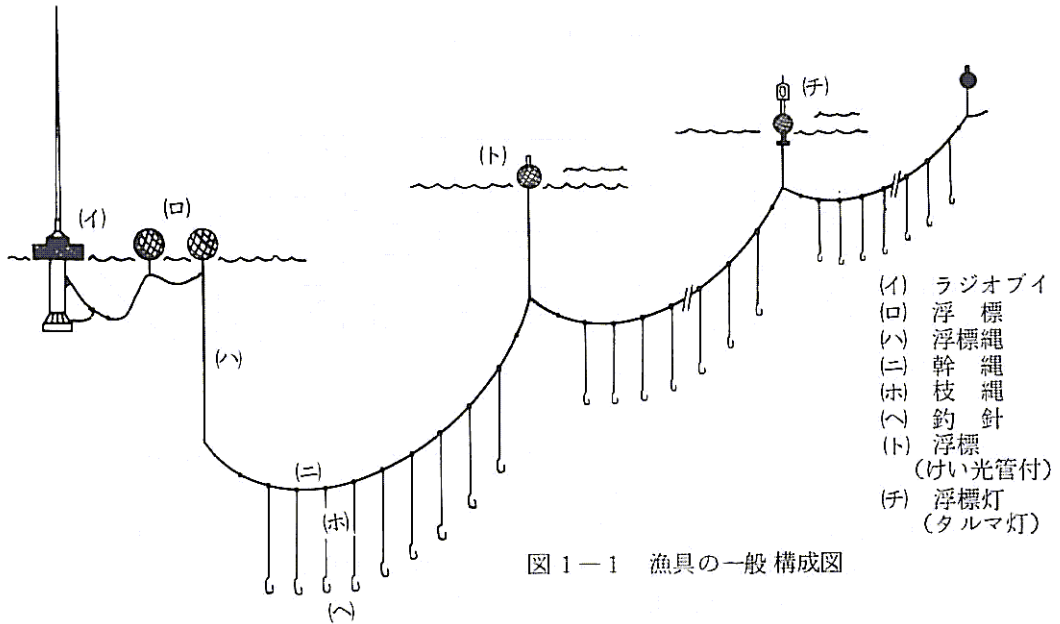


図 1-1 漁具の一般構成図

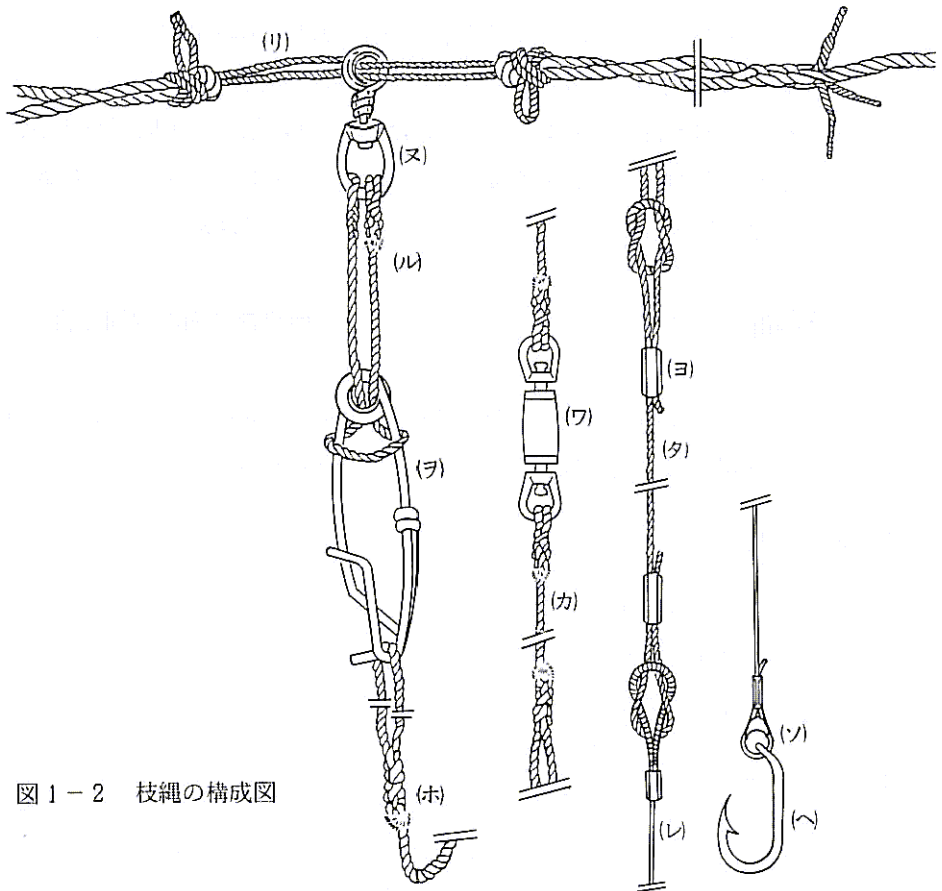
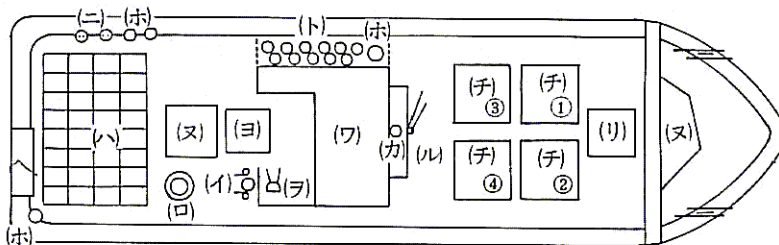


図 1-2 枝繩の構成図

表 1-1 漁具の仕様 (1 鉢分)

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	ラジオブイ				両端に 1 個づつ
ロ	浮標	プラスチック	径 6 寸 ~ 1 尺玉	2 個	
ハ	浮標縄	テトロン	8 mm 17.5 m	1 本	ポリエステル
ニ	幹縄	〃	5 mm 50 m	12 本	〃
ホ	枝縄	〃	3.8 mm 12 m	9 本	枝間隔 50 m 11 本付 2 本遊び
ヘ	釣針	鋼	32 号 (まぐろ針)	9 本	
ト	浮標	プラスチック		1 個	6 寸 ~ 1 尺玉
チ	浮標灯	〃	1 尺 2 寸	1 個	6 v 3 w
リ	連結縄	ポリプロピレン	P G 4 mm 20 cm	9 本	たまこ
ヌ	サルカン	鋼	12 mm	9 個	S B L
ル	結び縄 (あい)	テトロン	4 mm 2 重 20 cm	9 本	ポリエステル
ヲ	スナッチ フック	鋼	2.6 × 100 mm	9 個	
ワ	サルカン	〃	鉛錘フタバ印 32 g	9 個	
カ	結び縄	テトロン	30 cm	9 本	ポリエステル
ヨ	ロック	鋼	スーパー # 5	36 ケ	
タ	セキヤマ	テトロン	3.1 mm グリーン 7 m	9 本	ポリエステル
レ	釣元 ワイヤー	鋼	# 30 / 3 + 9 2.2 m	9 本	
ソ	あいまた				誘魚発光体

図 1-3 漁船の装備配置図



- (イ)ラインローラー (ロ)ブランチール (ハ)縄カゴ (ニ)ラジオブイ
 (ホ)浮標灯 (ダルマ灯) (ヘ)投縄台 (ト)浮子置場 (チ)魚艙 (①~④)
 (リ)食糧庫 (ヌ)漁具資材倉庫 (ル)リフト (魚揚げ用) (ヲ)エンジンクラッチ
 (ワ)船橋 (操舵、計器類、ベッド) (カ)機関室 (ヨ)舵機室

乗組員 2 人の時は 60 鉢、3 人の時は 80 鉢～82 鉢(カゴ)、1 鉢(カゴ)の枝数は 11 本付の 9 本使用で両端 1 本ずつ遊びとする。投縄は 10 時～13 時まで船尾で行う。17 時頃から揚縄を開始し、所要時間は 8 時間から 12 時間(平均 10 時間)。

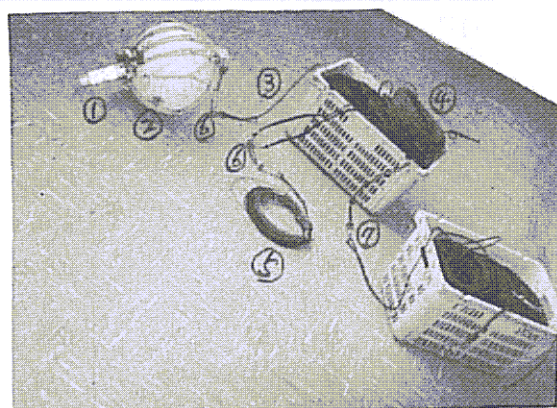
枝縄と漁場及び揚縄 - 潮流と風とのかかわりあいは、潮流に対して直角に近い角度で投縄する。投縄の際は、枝縄の釣針位置は、必ず船尾方向に置き(幹縄はカゴの中では交互に入れてある。幹縄の最初と最後及び浮縄のツボは 3

本 1 つにしてカゴ内の縄の上に出しておく) 投縄する時は、幹縄は船尾の台の上に出しておく、枝縄の釣針に餌をかけて投縄した時点で幹縄が 30% 程度残っているような状態で次々に投縄して行く。また投縄時に 1 鉢 1 鉢にたるみをもたせ、幹縄 600 m を大体 420 m 程度になるよう(30% はたるみ) 延縄する。普通曾根及び海底が隆起状水域で投縄する時は 1,000 m の等深線を海図上に記入して、その線域内で操業する。曾根上に縄がのらないように注意を払い、縄が潮に流されて曾根に近づいた場合はまず曾根に近い方から揚縄する。大陸棚及び島近くで操業する場合は水深の深いところから浅いところに向かって船の針路をセットして投縄する(湧昇流等水温、餌料生物、マグロの遊泳上環境的に良いから)。

漁場と漁期については、① 1 月及び 3 月には八重山北方海域、② 1 月及び 3 月～7 月にかけては久米島西方海域、③ 8 月～12 月は八重山、宮古南方海域、④ 沖縄近海の 2 月は時化の日が多いので北緯 21 度ぐらいに南下操業する。漁獲物は時期と漁場にもよるが大体キハダは 43～54%、メバチ 14～34%、ビンナガ 16～25%、クロカワ等カジキは 5～7% である。漁獲物の処理は死魚は鰓、内臓を取り出し、その後タワシを使って血合い等を落す。生きて釣獲された物は胸鰭の(下部)つけ根を包丁で切り(刺す)、血抜きを行い、鰓腹をとってきれいに洗い、ビニールに包みあるいはパーチメント(包み紙)で包んで氷蔵(又は水氷)にする。

航海日数は 7 日～10 日で、操業回数は 5 回～7 回、氷は夏は 4 トン、冬は 3 トン程度積込む。釣獲率は 0.8～1.4% の範囲である。

まぐる延縄



- ① けい光管 ② 浮標 ③ 浮標縄
- ④ 幹縄 ⑤ 枝縄 ⑥ スナッチフック
- ⑦ 連結縄